

# **STAR**

## **ミキシングスプレッダ**

### **取扱説明書・部品表**

製品コード K30852 · K30853 · K30854  
型式 MXS0510 · MXS0510-0S · MXS0510-3S  
部品供給型式 MXS0510-01

### **キャンバスカバーアタッチメント**

製品コード K93086  
型式 ACV0500

**部品ご注文の際は、必ず部品供給型式をご連絡ください。**

**“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。**

---

**スター農機株式会社**





# 安全に作業するために

## 安全に関する警告について

本機には、印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

### 警告ラベルについて

#### 危険

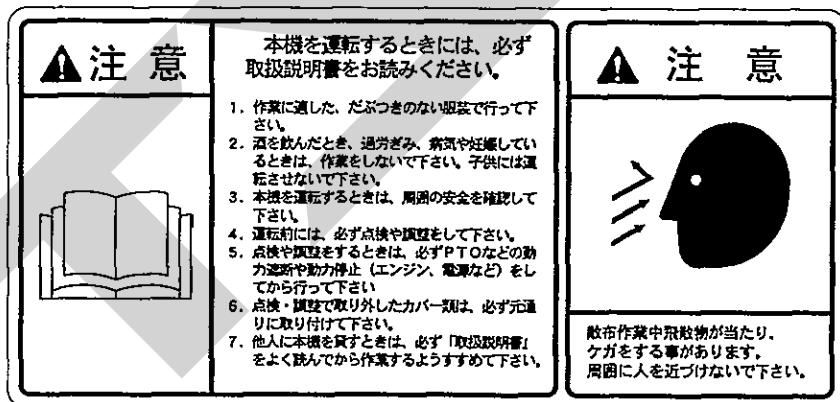
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。

#### 警告

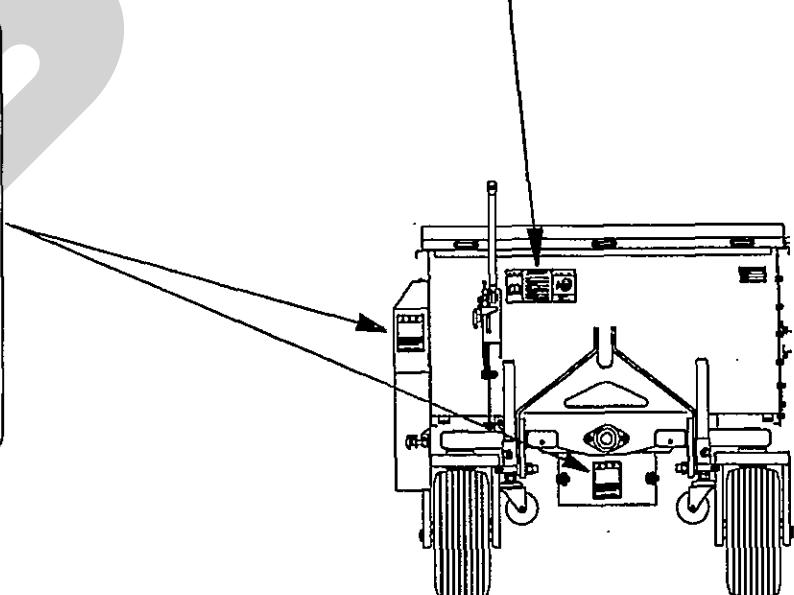
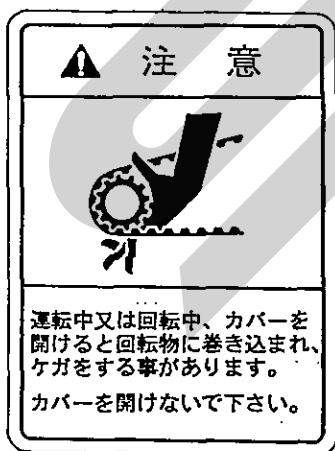
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

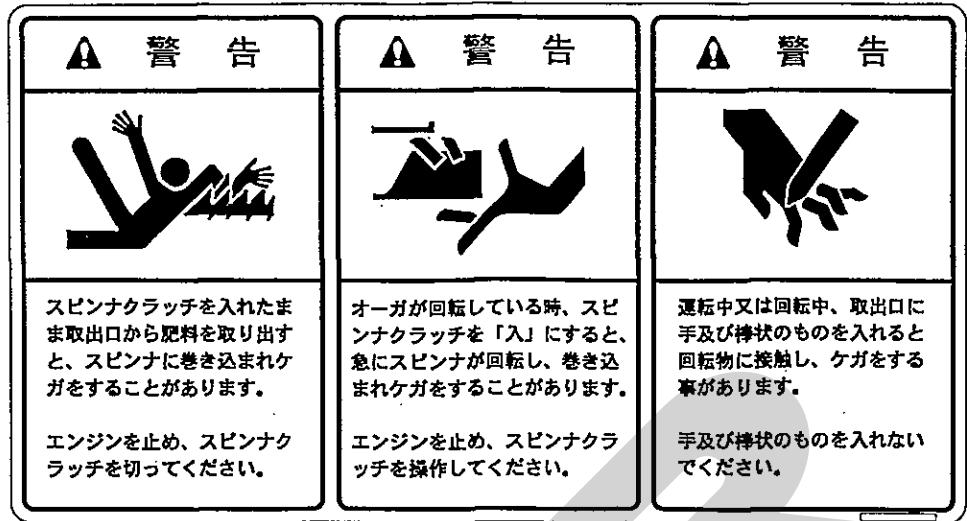
#### 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。

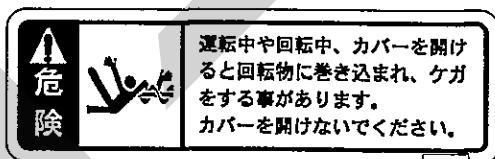
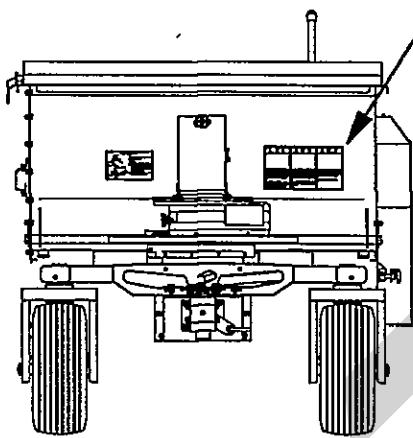


部品番号 1065360000

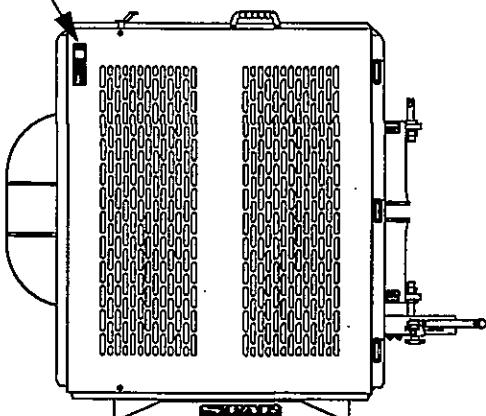
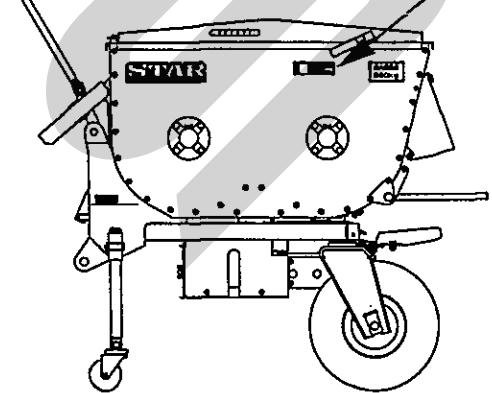




部品番号 1065640000



部品番号 1065650000



## — ラベルが損傷した時は —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへ危険を知らせる大事なものです。  
ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。  
注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

## 安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用ください。

### 作業前に

取扱説明書は製品に近接して保管を

#### ▲ 注意

- 機械の取り扱いで分からぬ事があった時、取扱説明書を製品に近接して保管していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こし、ケガをする事があります。  
取扱説明書は、分からぬ事があった時にすぐに取り出せるよう、製品に近接して保管してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

#### ▲ 注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。  
作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんな時は運転しないでください

#### ▲ 警告

- 体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。次の場合は、運転しないでください。
  - 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
  - 酒を飲んだ時。
  - 機械操作が未熟な人。
  - 妊娠している時。

服装は作業に適していますか

#### ▲ 警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。  
次に示す服装で作業してください。
  - 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。

- ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。
- ヘルメットを着用する。
- はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸す時は

#### ▲ 警告

- 機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からぬため、思わぬ事故を起こす事があります。  
取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

#### ▲ 注意

- 機械の改造や、当社指定以外の部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。  
機械の改造はしないでください。  
部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

始業点検の励行

#### ▲ 注意

- 始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。  
作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- 点検をする時、傾斜地や凸凹地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 点検をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 点検をする時、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。  
作業機を接地して行ってください。

エンジン始動・発進する時は

#### ▲ 警告

- エンジンを始動する時、周囲に人がいると、思いがけない原因でトラクタや作業機が動き出し、事故を起こす事があります。周囲に人がいないことを確かめてから行ってください。

- エンジンを始動する時、トラクタの横やステップに立ったまま行うと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをする事があります。運転席に座り、周囲の安全を確認してください。
- エンジンを始動する時、主変速レバーを「N」(中立)にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。主変速レバーを「N」(中立)にしてください。
- エンジンを始動する時、PTOを切らないで始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。  
PTOを切ってから始動してください。
- 急発進するとトラクタ前輪が浮き上がる事があり、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。
- 室内で始動する時、排気ガスにより中毒になる事があります。  
窓、戸などを開け、十分に換気してください。

#### 作業機を装着する時は

##### ▲ 警告

- 作業機を装着するためにトラクタを移動させる時、トラクタと作業機の間に人がいると、挟まれてケガをする事があります。  
トラクタと作業機の間に人を近づけないでください。
- 注意

- 作業機をトラクタに装着する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 作業機をトラクタに装着する時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因でトラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 装着するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、事故を起こす事があります。  
トラクタヘフロントウェイトを取り付け、バランスを取ってください。
- オートヒッチフレームを装着する時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因でトラクタが動き出し、事故を起こす事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

#### キャンバスカバーを着脱・調整する時は

##### ▲ 注意

- キャンバスカバーを着脱・調整する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- キャンバスカバーを着脱・調整する時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- キャンバスカバーを着脱・調整する時、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。  
作業機を接地して行ってください。

#### パワージョイントを使用する時は

##### ▲ 危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。  
カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをする事があります。  
損傷したらすぐに取り替えてください。  
使用前には損傷がないか点検してください。
- パワージョイントを装着する時、エンジンをとめずに行うと、思いがけない原因でパワージョイントが回転しケガをする事があります。  
エンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをする事があります。  
トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

##### ▲ 注意

- 3点リンクで作業機を持ち上げてパワージョイントの長さ調整をする時、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。  
トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。
- パワージョイントの重なり量が適正でないと、パワージョイントやP I C軸が破損し、ケガをする事があります。  
適正な重なり量で使用してください。
- パワージョイントを接続した時、クランプピンが軸の溝に納まっていると、使用中に外れ、ケガをする事があります。溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

## 公道走行時は作業機の装着禁止

### ▲ 注意

- トラクタに作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。  
　　トラクタに作業機を装着しての走行はしないでください。

- ホッパカバーを開けたまま走行すると、不意にホッパカバーが閉じ、ケガをする事があります。移動走行する時は、ホッパカバーを閉じ、ホッパカバーを閉じ、ホッパロックをかけてください。

## 移動走行する時は

### ▲ 危険

- 移動走行する時、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。  
　　ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

### ▲ 警告

- トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。  
　　トラクタには、運転者以外の人は乗せないでください。
- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。  
　　急制動・急旋回はしないでください。
- 坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。  
　　低速走行してください。
- 旋回する時、作業機が旋回方向とは逆方向にふくれるため、周囲の人に対する接触しケガをさせたり、対向物・障害物に衝突しケガをする事があります。  
　　周囲の人や対向物・障害物との間に十分な間隔を保って行ってください。
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると、転落事故を起こす事があります。  
　　路肩は走行しないでください。
- 高低差の大きい段差を乗り越えようすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをする事があります。あゆみ板を使用してください。
- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。  
　　また、物を載せて走行すると、落下し、周囲の人へケガを負わせる事があります。  
　　作業機の上には、人や物などはのせないでください。

### ▲ 注意

- PTOを切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせる事があります。  
　　移動走行する時は、PTOを切ってください。

## 作業中は

### 作業する時は

#### ▲ 危険

- 運転中や回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。  
　　カバーを開けないでください。
- 肥料を混合する時、適正な混合をしないと、混合した肥料が発熱して火傷をしたり、あるいは、火災が発生する事があります。  
　　適正な混合をしてください。

#### ▲ 警告

- 取出口の肥料付着を除去する時、エンジンをとめずに行なうと、回転物に巻き込まれケガをする事があります。  
　　エンジンをとめて、棒状のもので除去してください。
- スピンナクラッチを入れたまま取出口から肥料を取り出すと、スピナに巻き込まれ、ケガをする事があります。  
　　エンジンをとめ、スピナクラッチを切ってください。
- オーガが回転している時、スピナクラッチを「入」にすると、急にスピナが回転し、巻き込まれケガをする事があります。  
　　エンジンをとめ、スピナクラッチを操作してください。
- 運転中又は回転中、取出口に手および棒状のものを入れると回転物に接触し、ケガをする事があります。  
　　手および棒状のものをいれないとください。
- 作業機指定のPTO回転速度を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。  
　　指定回転速度を守ってください。
- 作業機の上に人を乗せると、思わぬ事故をまねく事があります。  
　　作業機の上には人を乗せないでください。
- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねく事があります。  
　　低速で作業してください。  
　　下り作業をする時、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。  
　　坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおりてください。

- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こす事があります。  
前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。
- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こす事があります。  
しっかりとハンドルを握って運転してください。
- 肥料中に石・木片・氷塊などが混入していると、散布作業中、思わぬ方向に飛散してケガをしたり、周囲のものを破損させる事があります。  
肥料以外のものを混入しないでください。
- ハウス内などの室内作業をする時、排気ガスにより中毒になる事があります。  
窓・戸などを開け、十分に換気をしてください。

#### ▲ 注意

- 肥料の投入をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 散布作業中、飛散物が当たりケガをする事があります。  
周囲に人を近づけないでください。
- 運転中または回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。  
カバーを開けないでください。
- 調整や付着物の除去などをする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 調整をする時、傾斜地や凸凹地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 調整をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 調整をする時、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。  
作業機を接地して行ってください。

#### トラクタから離れる時は

##### ▲ 警告

- トラクタから離れる時、傾斜地や凸凹地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こす事があります。平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。
- トラクタから離れる時、作業機を接地しないでおくと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。作業機を接地してからトラクタを離れてください。

#### 作業が終わったら

#### 作業後の手入れをする時は

##### ▲ 注意

- 作業後の手入れをする時、傾斜地や凸凹地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 作業後の手入れをする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 作業後の手入れをする時、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。  
作業機を接地して行ってください。

#### 終業点検の励行

##### ▲ 危険

- パワージョイントを外す時、エンジンをとめずに行うと、思いがけない原因でパワージョイントが回転し、ケガをする事があります。  
エンジンをとめて行ってください。

##### ▲ 注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。  
作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- 作業機をトラクタから切り離す時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因でトラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

- オートヒッチフレームを切り離す時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行なうと、思いがけない原因でトラクタが動き出し、事故を起こす事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 点検整備をする時、傾斜地や凸凹地または軟弱地などで行なうと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 点検整備をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行なうと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 点検整備をする時、作業機を接地しないで行なうと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。  
作業機を接地して行ってください。
- 作業をする時、カバー類を外して作業すると、ケガをする事があります。  
点検整備の後は、カバー類を元通りに取り付けてください。
- 運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれケガをする事があります。  
カバーを開けないでください。

#### 不調対応処置・点検・整備をする時

##### ▲注意

- 不調対応処置・点検・整備をする時、傾斜地や凸凹地または軟弱地などで行なうと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 不調対応処置・点検・整備をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行なうと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 不調対応処置・点検・整備をする時、作業機を接地しないで行なうと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。  
作業機を接地して行ってください。
- 作業をする時、カバー類を外して作業すると、ケガをする事があります。  
不調対応処置・点検・整備の後は、カバー類を元通りに取り付けてください。

# もくじ



## 安全に作業するために

安全に関する警告について	1	作業が終わったら	6
作業前に	3	不調処置・点検・整備をする時	7
作業中は	5		



## 1 トラクタへの装着

1 各部の名称とはたらき	10	4 パワージョイントの装着	13
2 適応トラクタの範囲	12	1. 長さの確認方法	14
3 トラクタへの装着	12	2. 切断方法	14
1. 装着前の準備	12	3. 安全カバーの脱着方法	14
2. 標準タイプの装着	12	4. パワージョイントの連結	14
3. OS, 3Sタイプの装着	13		



## 2 運転を始める前の点検

1 運転前の点検	15	2 エンジン始動での点検	15
1. トラクタ各部の点検	15	3 給油箇所一覧表	16
2. 連結部の点検	15		
3. ミキシングスプレッダの点検	15		



## 3 作業の仕方

1 本製品の使用目的	17	3 作業要領	18
2 作業のための調整	17	1. 最大積載量	18
1. PTO回転速度	17	2. ホッパカバーの開閉の仕方	18
2. スピンナーブレードの調整	17	3. 肥料混合の仕方	19
3. 肥料別ボトムプレートの位置調整	17	4. シャーボルト切断時の注意	22
		4 運搬	22

## 4 作業が終わったら

1 作業後の手入れ	..... 23	3 長期格納する時	..... 24
2 トラクタからの切り離し	..... 23		
1. 標準タイプの切り離し	..... 23		
2. 3Sタイプの切り離し	..... 23		

## 5 点検と整備について

1 点検整備一覧表	..... 25	2 各部の調整	..... 26
		1. ローラチェーンの張り調整	..... 26
		2. シャーボルトの交換	..... 26

## 6 不調時の対応

1 不調処置一覧表	..... 27
-----------	----------

## 7 オプション

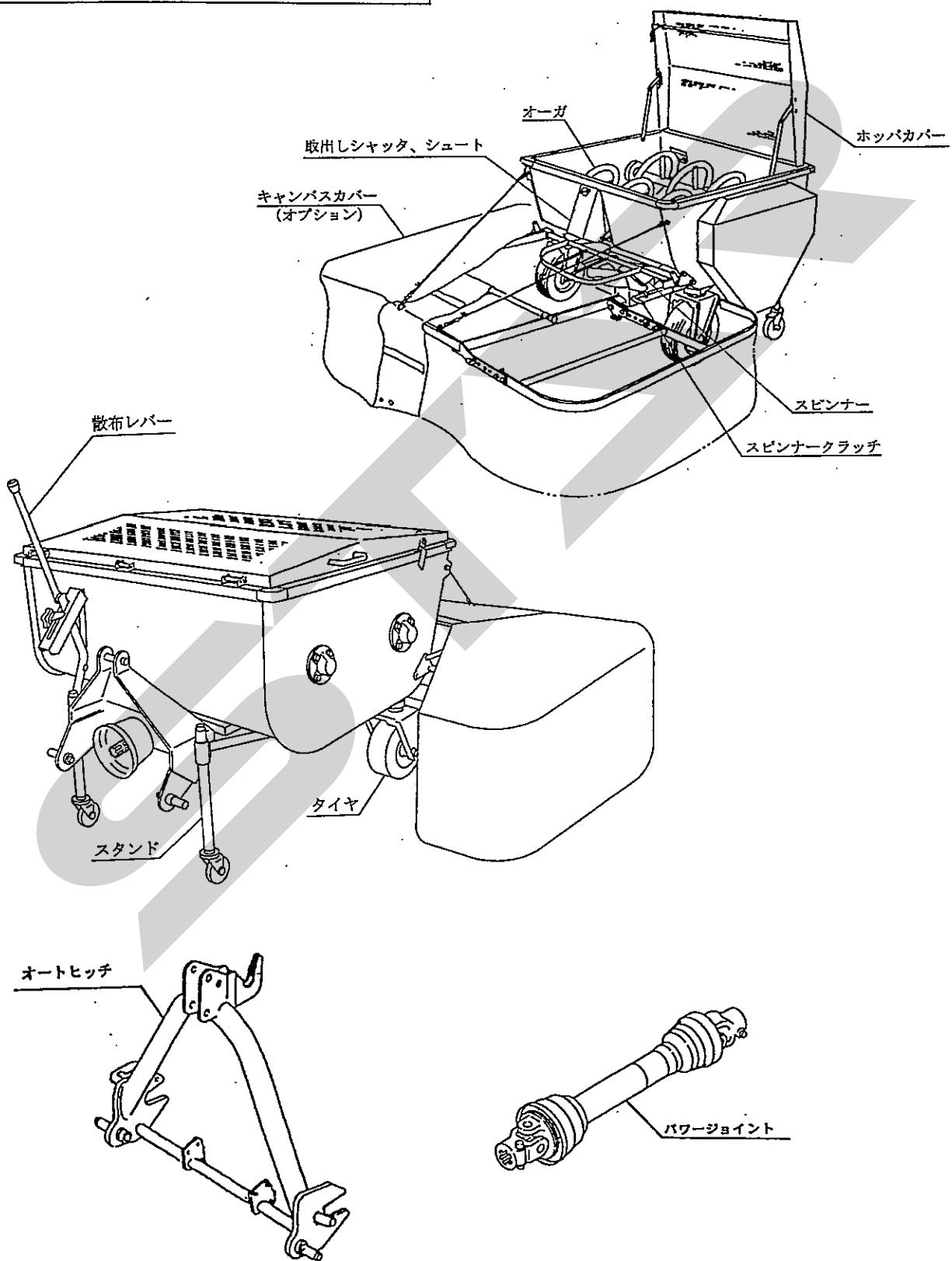
1 キャンバスカバーアタッチメント	..... 27	1. キャンバスカバーの組立・装着	..... 28
		2. キャンバスカバーの折りたたみ方法	..... 29
		3. 敷布幅の調整	..... 30

## 8 部品表 ..... 31

# 1 トラクタへの装着

適切な装着で安全な作業をしましょう。

## 1 各部の名称とはたらき



1. スピンナークラッチレバー  
スピンナーへの動力の入り切りに使用します。
2. 散布レバー  
肥料の散布開始および終了をこのレバーの押し引きにより行います。
3. 取出しシャッタ、シート  
混合した肥料などを取り出す時に使用します。
4. ホッパカバー  
作業中の安全のためにホッパを覆うカバー。
5. キャンバスカバー（オプション）  
肥料の飛散を防止し、散布幅の調整に使用します。
6. オーガ  
肥料の混合を行います。
7. スピンナー  
回転する羽根により肥料を散布します。
8. スタンド  
トラクタから切り離す時に使用します。
9. タイヤ  
タイヤサイズ；16×6.50-8-4PR  
空気圧；206kPa(2.1kg/cm<sup>2</sup>)
10. パワージョイント  
トラクタの動力をミキシングプレッダに伝えます。
11. オートヒッチ  
3P・4P等、以下の説明に用いる「P」とは Point(点)の略で夫々3点(3箇所)、4点(4箇所)の意味を表します。
  - (1) トラクタの3点装置(3P=ロワーリンク2P+トップリンク1P)を使用して装着(直装)する作業機を対象に、予めトラクタの3Pに作業機装着用のフレームを取り付けておき、そのフレームに設けられた3Pと作業機側の3Pを、トラクタ3点装着を昇降する事によって、自動的に脱着

する方法を「オートヒッチ」と言い、予めトラクタ3Pに装着するフレームの事を「オートヒッチフレーム」と言います。（「オートヒッチ」との呼び方は、日農工の部会で申し合わされた呼称です。）

この装着状態を3Pオートヒッチ(略して「3P」)と言います。

- (2) オートヒッチフレームに、作業機のP I C軸と駆動伝達が自動的に連結される駆動受部を設け、3P脱着と同時に、この1Pも同時に着脱する状態を4Pオートヒッチ(略して「4P」)と言います。

〔オートヒッチフレームの駆動受部とトラクタのPTO軸とはパワージョイントで連結されます。〕

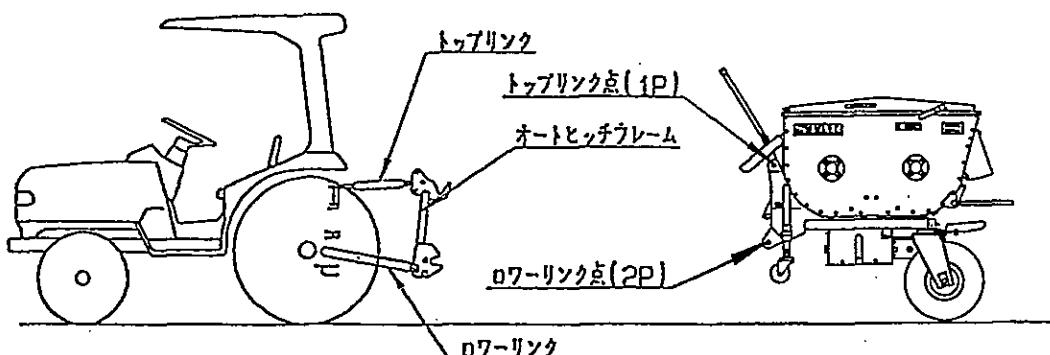
- (3) JIS規格により、トラクタ3Pの寸法が規定されており、「0・I兼用タイプ」と「I・II兼用タイプ」があります。

オートヒッチにもこの2種類があり、一般的に「0・I兼用タイプ」は「S」、「I・II兼用タイプ」は「L」で区分しています。

「0・I兼用」の3P・4Pは3S・4Sで表しています。

Sタイプのセット区分は次のようになっています。

呼び	製品セット構成に伴う装着内容
標準	オートヒッチフレームを使用せず、トラクタ3Pに作業機の3Pを直接装着
-0S	オートヒッチフレーム、パワージョイントは標準では装着なし。他の作業機の3Pヒッチで装着
-3S	オートヒッチフレームが標準装備で3P装着、ジョイントは標準のものをあとから装着
-4S	本作業機は4Pオートヒッチでは装着できません。



## 2 適応トラクタの範囲

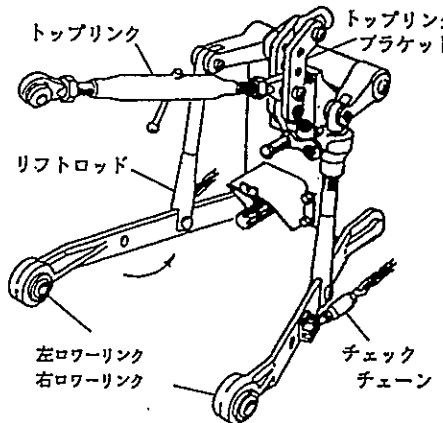
本製品は適切なトラクタとの装着により的確に性能を発揮できるように設計されています。

不適切なトラクタとの装着によっては、本製品の耐久性に著しく影響を及ぼしたり、トラクタの運転操作に著しい悪影響を及ぼすことがあります。

この製品の適応トラクタ馬力は次のとおりです。

### 適応トラクタ馬力

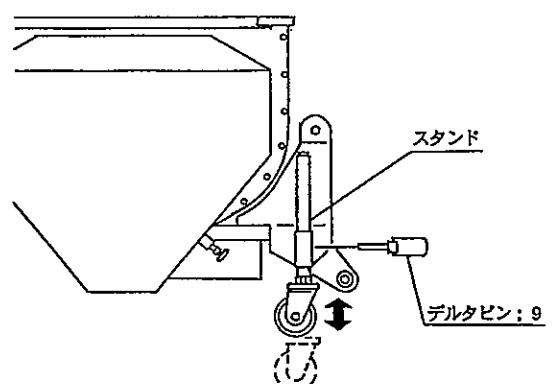
15~50Ps



## 2. 標準タイプの装着

トラクタ 3 点リンクヘミキシングスプレッダの 3 点を連結します。

- (1) カテゴリー 0 のトラクタはミキシングスプレッダのロワーリンクピンを内向きに、カテゴリー I ・ II のトラクタは、ロワーリンクピンを外向きに取り付けてください。
- (2) トラクタのエンジンを始動して、ロワーリンク先端部がミキシングスプレッダの左右のロワーリンクピンの位置が合うまで後進して、トラクタをとめてください。  
エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- (3) 左のロワーリンクを連結し、抜け止めにトラクタに付いているリンチピンをロワーリンクピンに差してください。  
次に右のロワーリンクも同じ順序で行ってください。
- (4) トップリンクを連結し、抜け止めにベータピンを差してください。
- (5) 左右のロワーリンクが同じ高さになるように、トラクタ右側のアジャストスクリュウで調整してください。
- (6) P I C 軸芯がトラクタ中心におおよそ一致するよう、チェックチェーンでセットし、ミキシングスプレッダの横振れをなくしてください。
- (7) スタンドを上げてデルタピンにて固定してください。



- (8) 3 点リンクを下げ、作業機をおろしてください。

## 1. 装着前の準備

本作業機の装着方法は、標準 3 点リンク式です。作業機の下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取付穴位置をロワーリンクの前側の穴に移してください。

特殊 3 点リンク式のロータリーを使用している場合には、トップリンクの連結部を外し、標準 3 点リンク用の長いトップリンクを使用してください。

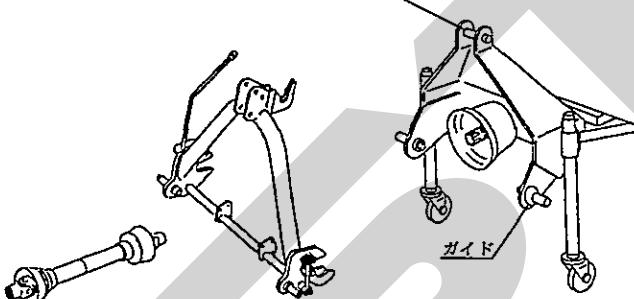
### 3. O S, 3 Sタイプの装着

#### ▲注意

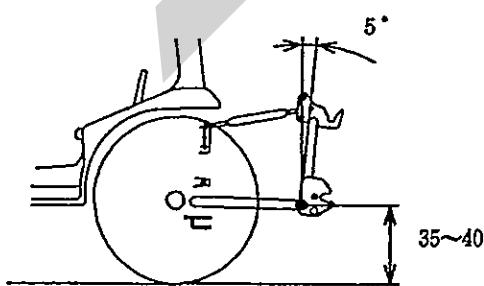
- オートヒッチフレームを装着する時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因でトラクタが動き、事故を起こす事があります。エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

- (1) 本作業機のオートヒッチは日農工標準オートヒッチ0・I兼用区分Bを採用しています。
- (2) ミキシングスプレッダ本体に、スタンドをセットしてください。
- (3) 図を参考にして、ピン、カラー、ガイドをミキシングスプレッダ本体に組み付けしてください。
- (4) カテゴリー0のトラクタは、オートヒッチフレームのロワーリンクピンを内向きに、カテゴリーIのトラクタは外向きに取り付けてください。
- (5) お手持ちのオートヒッチフレームまたは購入されたオートヒッチフレームをトラクタに装着し、トップリンクピン及びロワーリンクピンに抜け止めのリンチピンを差してください。
- (6) ミキシングスプレッダのトラクタへの装着をスムーズに行うため、チェックチェーンは若干ゆるめに張ってください。

ピン、カラー



- (7) ロワーリンクの地上高が35~40cm位で、オートヒッチフレームの姿勢が後傾5°位になるようにトップリンクの長さを調整してください。



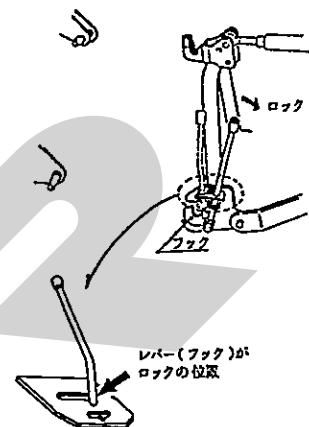
- (8) オートヒッチフレーム上部ガイド（フック部）がトップリンク部をすくい上げることができる位置までトラクタをミキシングスプレッダ中心に向けてバックさせます。次に油圧を上げて、オートヒッチにミキシングスプレッダを装着させます。

#### 取扱い上の注意

ロワーリンクがスイッチ操作で勢いよく最上部まで自動上昇する機構を持ったトラクタがあります。手動で干渉のない事を確認し、十分余裕をとって上がり規制を行ってください。電圧を確認してから接続してください。

#### (9) ミキシングス

プレッダ装着後、オートヒッチのレバーがロックの位置にあり、フックが掛かっていることを確認してください。



- (10) P I C軸芯がトラクタ中心におおよそ一致するようチェックチェーンでセットし、ミキシングスプレッダの横振れをなくしてください。

### 4 パワージョイントの装着

#### ▲危険

- カバーのないパワージョイントを使用すると、巻き込まれてケガをすることがあります。カバーのないパワージョイントは、使用しないでください。
- カバーが損傷したまま使用すると、巻き込まれてケガをすることがあります。損傷したらすぐに取り替えてください。使用前には損傷がないか点検してください。
- パワージョイントを装着する時、エンジンをとめずに行うと、思いがけない原因でパワージョイントが回転し、ケガをすることがあります。エンジンをとめて行ってください。
- カバーのチェーンを取り付けないで使用すると、カバーが回転し、巻き込まれてケガをすることがあります。トラクタ側と作業機側のチェーンを回転しない所に連結してください。

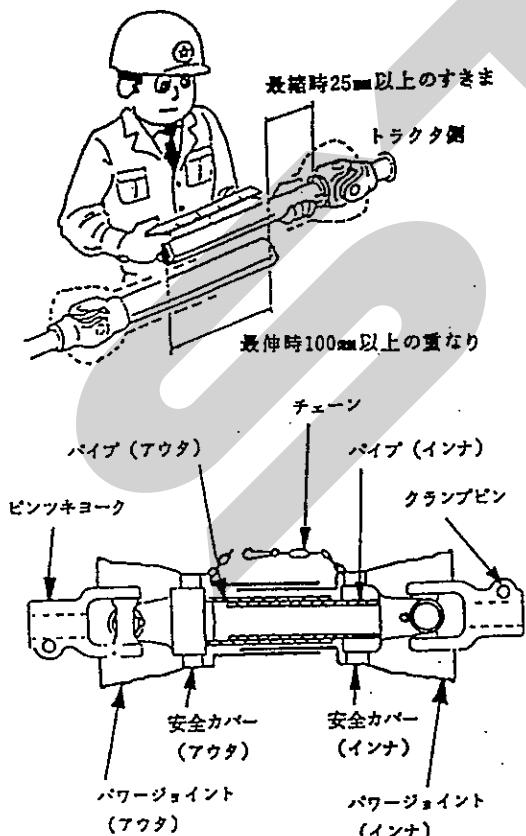
#### ▲注意

- 3点リンクで作業機を持ち上げてパワージョイントの長さ調整をする時、思いがけない原因で作業機が落下してケガをすることがあります。トラクタ3点リンクの油圧回路をロックして行ってください。

- パワージョイントの重なり量が適正でないと、パワージョイントやP I C軸が破損し、ケガをする事があります。
- 適正な重なり量で使用してください。

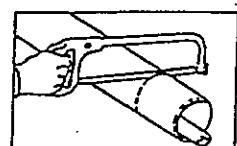
## 1. 長さの確認方法

- (1) パワージョイント単体で最縮長時の安全カバー（アウタ）端部位置を安全カバー（インナ）にマーキングしてください。
- (2) パワージョイント（アウタ）から、パワージョイント（インナ）を引き抜いてください。
- (3) 3点リンクを昇降させて、PTO軸とP I C軸が最も接近する位置で、昇降を停止してください。
- (4) ピン付きヨークのクランプピンを押して、PTO軸、P I C軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。
- (5) 安全カバー同士を重ね合わせた時、安全カバー（アウタ）端部位置とマーキング位置の間隔が25mm以下のは、25mmの間隔を保つように切断方法の手順に基づき切断してください。
- (6) 3点リンクを昇降させて、PTO軸とP I C軸が最も離れる位置で、昇降を停止してください。
- (7) 安全カバー同士を重ね合わせた時、パイプの重なりが100mm以下の場合は販売店に連絡し、長いパワージョイントと交換してください。

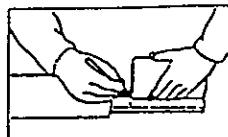


## 2. 切断方法

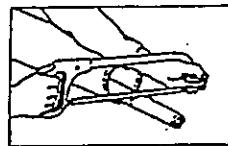
- (1) 安全カバーのアウタ・インナ両方を長い分だけ切り取ります。



- (2) 切り取った同じ長さをパイプの先端から計ります。



- (3) パイプのアウタとインナ両方を金ノコまたはカッターで切断します。



切断する時は、パイプの中にウエスを詰め、パイプ内面に切り粉が付着するのを防いでください。

- (4) 切り口をヤスリなどでなめらかに仕上げてからパイプをよく清掃し、次にグリースを塗布して、アウタとインナを組み合せます。

## 3. 安全カバーの脱着方法

- (1) 安全カバーからチェーンをはずしてください。
- (2) 安全カバーのチューブ側を固定し、ヨーク側カバーを反時計方向に回転してください。
- (3) ヨーク側カバーをチューブ側に押すとヨーク側カバーが外れます。
- (4) チューブ側カバーをパイプから抜いてください。
- (5) 新しい安全カバーを組み付ける時は逆手順で行ってください。

## 4. パワージョイントの連結

- (1) ピン付ヨークのクランプピンを押して、PTO軸、P I C軸に連結し、クランプピンがもとの位置に出るまで押し込んでください。

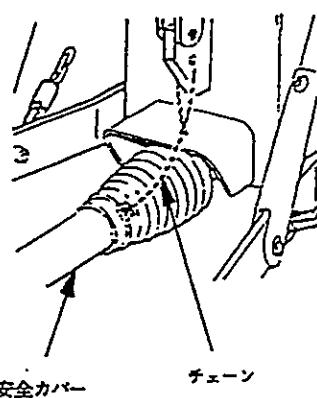
### ▲ 注意

- パワージョイントを接続した時、クランプピンが軸の溝に納まっていると、使用中に外れ、ケガをする事があります。

溝に納まっているか、接続部を押し引きして確かめてください。

- (2) 安全カバーのチェーンを固定した所に取り付け、カバーの回転を防いでください。

チェーンは3点リンクの動きに順応できる余裕を持たせ、また他へのひつかかりなどがないよう余分なたるみを取ってください。



## 2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

### 1 運転前の点検

#### 1. トラクタ各部の点検

トラクタの取扱説明書に基づき点検を行ってください。

#### 2. 連結部の点検

##### ▲ 注意

- 点検をする時、傾斜地や凸凹地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こすことがあります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 点検をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをすることがあります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 点検をする時、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをすることがあります。  
作業機を接地して行ってください。

#### (1) 3点リンクと3点フレームの連結部点検

- ロワーリンク・トップリンクのリンチピン・ベータピンは確実に挿入されているか。
- チェックチェーンは張られているか。
- 不具合が見つかった時は、「1-3 トラクタへの装着」の説明に基づき不具合を解消してください。

#### (2) パワージョイントの点検

- ピン付ヨークの抜け止めのクランプピンが軸の溝に納まっているか。  
穴付ヨークにピン；8が差し込まれて、ピン；8の抜け止めが穴付ヨーク外周の溝に確実にはめ込まれているか。
- ジョイントカバーのチェーンの取り付けに余分なたるみはないか。  
また、適度な余裕があるか。
- ジョイントカバーに損傷はないか。
- 不具合が見つかった時は、「1-4-4 パワージョイントの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

#### 3. ミキシングスプレッダの点検

「5-1 点検整備一覧表」に基づき始業点検を行ってください。

### 2 エンジン始動での点検

##### ▲ 警告

- エンジンを始動する時、周囲に人がいると、思いがけない原因でトラクタや作業機が動き出し、事故を起こす事があります。  
周囲に人がいないことを確かめてから行ってください。
- エンジンを始動する時、PTOを切らないで始動すると、急に作業機が駆動され、周囲にいる人がケガをする事があります。  
PTOを切ってから始動してください。

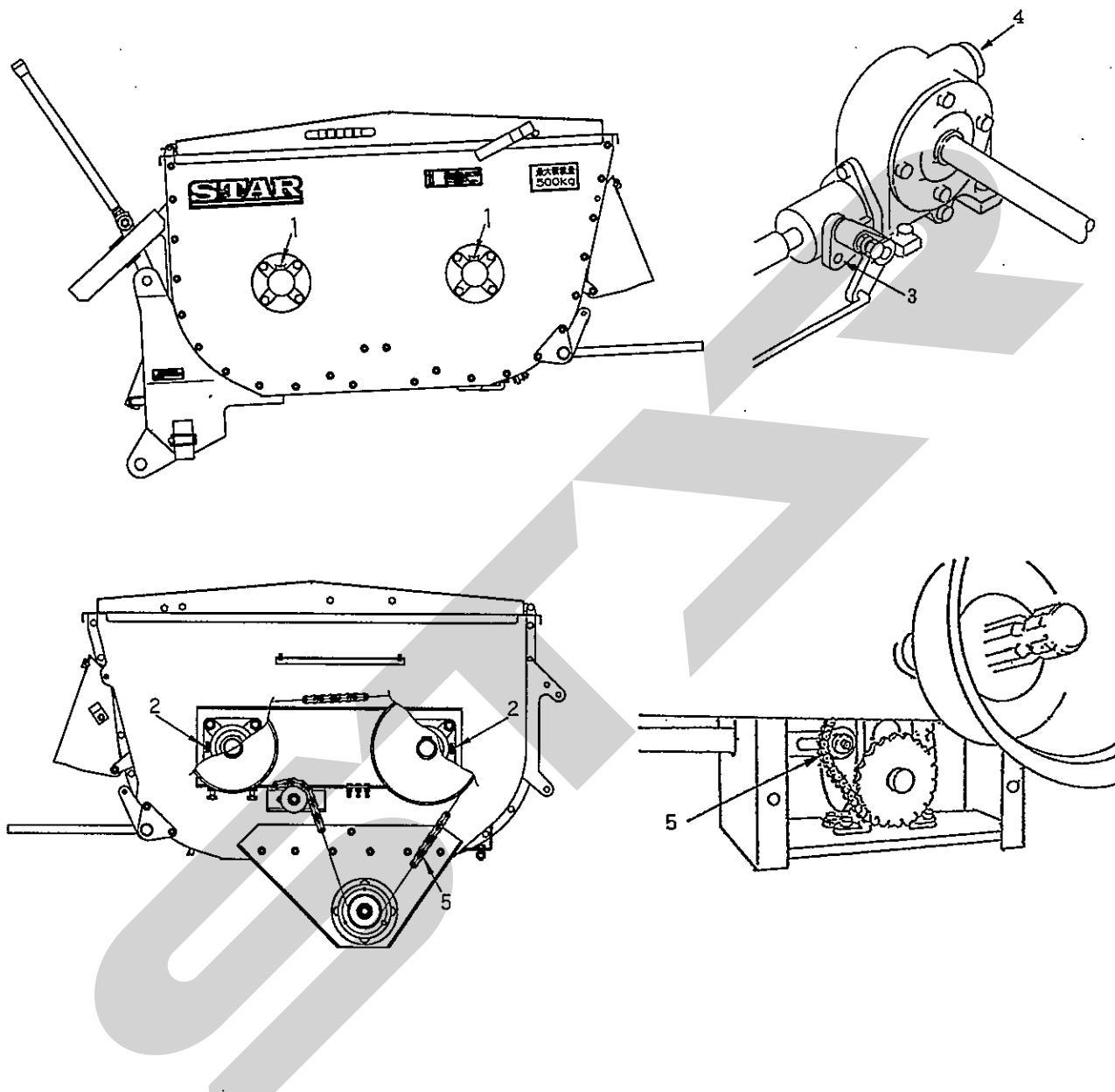
#### 1. トラクタ油圧系統の点検

トラクタ油圧を操作し、3点リンクを上昇し、作業機を持ち上げた状態で、降下がなければ異常ありません。

トラクタ油圧系統などに異常がある時は、トラクタ販売店にご相談ください。

### 3 給油箇所一覧表

- 給油・塗布するオイルは清浄なものを使用してください。
- グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。
- 排出されたグリースは拭き取ってください。



No.	給油場所	箇所	潤滑油の種類	給油時間	量	備考
1	オーガ軸受 従動側	2	グリース	使 用 每	適 量	給脂
2	オーガ軸受 駆動側	3	"	"	"	"
3	スピナークラッチ	1	オイル	"	"	注油
4	ウォームボックス	1	ギヤオイル #90	—	0.3ℓ	給油
5	ローラーチェーン	2	オイル	使 用 每	適 量	塗布

### 3 作業の仕方

#### 1 本製品の使用目的

本製品は有機肥料、化成肥料の混合および散布に使用します。

他の用途には使用しないでください。

##### 取扱い上の注意

- 肥料中に石・木片・氷塊・ヒモなどが混入していると、本機の破損原因となる事があります。  
混入しないように日常から管理してください。

#### 2 作業のための調整

##### ▲ 注意

- 調整をする時、傾斜地や凸凹地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 調整をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 調整をする時、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。  
作業機を接地して行ってください。

##### 1. PTO回転速度

##### ▲ 警告

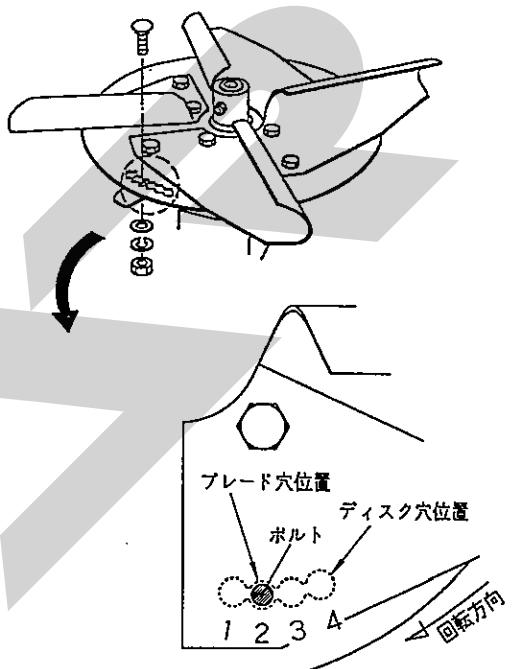
- 作業機指定のPTO回転速度を超えて作業すると、機械の破損により、ケガをする事があります。  
指定回転速度を守ってください。

作業時における常用PTO回転速度は540 r.p.m.です。

##### 2. スピンナーブレードの調整

肥料の種類、水分により散布に片寄りが発生する事があります。その場合は、スピナーブレードの取付角度を調節してください。

- 図示部のボルトを取り外してください。
- ホッパ側より見て、散布方向が右にかたよる場合はブレードの穴位置をディスク穴位置の4側へ、左へかたよる場合は1側へずらしてください。
- ボルトをディスク上面より通し、ナット、バネザガネで固定してください。



##### 3. 肥料別のボトムプレートの位置調整

肥料の種類、水分により散布特性や落下量が異なります。

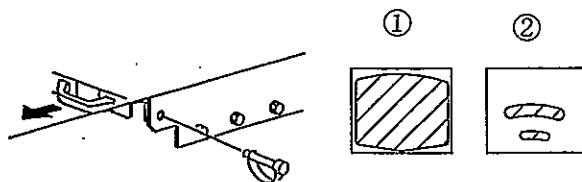
本機は有機肥料用と化成肥料用の二種類のボトムプレートがあり、ボトムプレートをスライドさせることにより落下口を選択できます。

- 水分のある有機肥料は、ボトムプレート；ユウキをAの位置にセットしてください。
- 有機肥料の中でも低水分の物は進行方向左に散布が片寄る場合があります。  
その場合はボトムプレート；ユウキをBの位置にセットしてください。
- 粒径4mm以下の化成肥料のみの散布を行う場合は、ボトムプレート；カセイをAの位置にセットしてください。
- 粒径4mm以上の化成肥料及び固形肥料の場合は、ボトムプレート；カセイをBの位置にセットしてください。

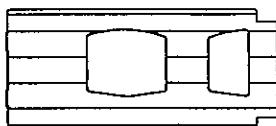
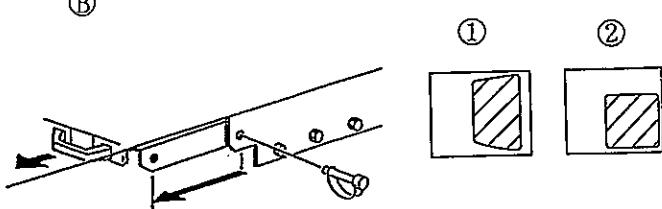
- ボトムプレートを固定しているデルタピンを外します。
- 取っ手を握り肥料に適した落下口の位置にボトムプレートをスライドさせます。

(3) ボトムプレートの固定穴にデルタピンを差し込み、固定してください。

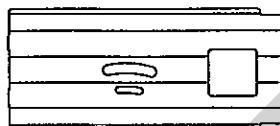
Ⓐ



Ⓑ



①ボトムプレート;ユウキ



②ボトムプレート;カセイ

### 3 作業要領

#### ▲ 危険

- 運転中や回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをする事があります。カバーを開けないでください。

#### ▲ 警告

- 肥料中に石・木片・氷塊などが混入していると、散布作業中、思わぬ方向に飛散してケガをしたり、周囲のものを破損させる事があります。肥料以外のものを混入しないでください。
- ハウス内などの室内作業をする時、排気ガスにより中毒になる事があります。窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。

#### ▲ 注意

- 肥料の投入をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行なうと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

- 散布作業中、飛散物が当たり、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。
- 調整や付着物の除去などをすると、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行なうと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。

エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

### 1. 最大積載量

本作業機の最大積載量は500kgです。また、最大積載容量は420リットルです。投入量は作業機側面の積載量ラベルを目安にしてください。

### 2. ホッパカバーの開閉の仕方

#### ▲ 注意

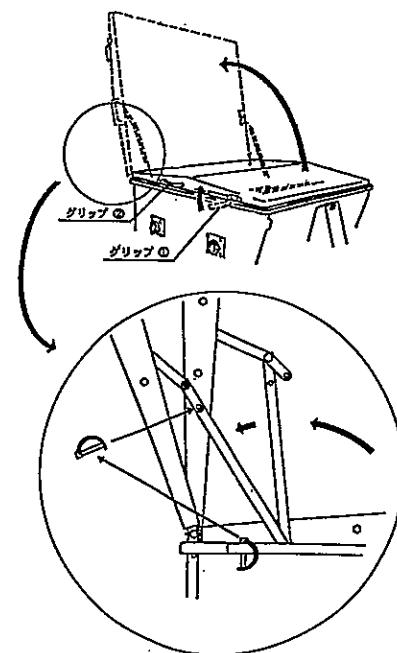
- ホッパカバーを開けたまま走行すると、不意にホッパカバーが閉じ、ケガをする事があります。移動走行する時は、ホッパカバーを閉じホップロックをかけてください。

#### [開くとき]

- 右手はグリップ①を、左手はグリップ②を握ります。
- 右手でグリップ①をロック解除方向に動かし、ロックを解除します。
- ステーがホッパカバーをささえる位置まで両手で持ち上げる様にホッパカバーを開いてください。
- ホップよりデルタピンをはずし、ステーの穴が合う位置でデルタピンを両方の穴に通し、ホッパカバーを固定してください。

#### [閉じるとき]

閉じるときは開くときの逆の手順で行ってください。ホッパカバーをホップロックでロックしてください。



### 3. 肥料混合の仕方

#### ▲危険

- 肥料を混合する時、適正な混合をしないと、混合した肥料が発熱して火傷をしたり、あるいは、火災が発生する事があります。
- 適正な混合をしてください。

#### (1) 肥料混合の可否について

肥料は原料となる単肥の性質によって、混合してもよいもの、混合したらすぐに用いるもの、混合してはいけないものがあります。

必ず肥料混合可否表を参考にして、適正な肥料の混合を行ってください。

混合の可否が不明な場合は、肥料メーカーに安全性を確認してから混合してください。

肥料混合表 (前田正男『肥料便覧・第1版』農文協)

		硫 塩 硝 尿 石 灰 チ ッ	過 熔 苦 重 土 燧 リ 過 り	硫 塩 草 酸 化 木 力 力	魚 骨 鶏 堆 緑 肥 フ ゆ う ・ 油 力	生 消 炭 硫 水 石 灰 碳 ケ 安 安 安 素 ソ
		硫 塩 硝 尿 石 灰 チ ッ	過 熔 苦 重 土 燧 リ 過 り	硫 塩 草 酸 化 木 力 力	魚 骨 鶏 堆 緑 肥 フ ゆ う ・ 油 力	生 消 炭 硫 水 石 灰 碳 ケ 安 安 安 素 ソ
硫 塩 硝 尿 石 灰 チ ッ	安 安 安 素 ソ	△ ▲ ○ × △ ▲ ▲ ▲ × △ ▲ ▲ ▲ × ○ ▲ ▲ ▲ × × × × ▲	○ × ○ ○ △ × ▲ ○ △ × ▲ ▲ △ ○ ▲ ○ × ○ × ▲	○ ○ × △ ▲ × △ ▲ × △ ▲ ▲ △ ▲ ○	○ ○ ▲ ▲ ▲ ○ ○ ▲ ▲ ▲ × ▲ × × × △ ○ ▲ ▲ ▲ ○ ○ ○ ▲ ○	× × ▲ ○ × × × × × ▲ ▲ × × × × × ▲ ▲ × × × △ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ○ ○ ○ × ○ ○ ○
過 熔 苦 重 土 燧 リ 過 り	石 ン 石 ン	○ ▲ ▲ ▲ × × × × ○ ○ ○ ▲ ▲ ▲ × ○ ○ ▲ ○ ▲	△ ○ ○ △ × ○ ○ × ○ ○ ○ ○	○ ▲ × ○ ○ ○ ○ ▲ × ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ▲ ▲ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	× × ▲ ○ × × × △ ○ ○ ○ ○ ○ ○ × × ▲ ○ × × × △ ▲ ▲ ○ ▲ ▲ ▲
硫 塩 硝 尿 石 灰 チ ッ	酸 力 リ 化 力 リ 草 木 灰	○ ▲ ▲ ▲ ▲ ○ ▲ ▲ ▲ ▲ × × × ▲ ○	○ ○ ○ ○ △ ○ ▲ ○ × ○ × ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ▲ ▲ ○	△ ○ ○ ○ ○ ○ △ ▲ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
魚 骨 鶏 堆 緑 肥 フ ゆ う ・ 油 力	ス 粉 ン 骨 鶏 堆 緑 肥 フ ゆ う ・ 油 力	○ ○ × ▲ ○ ○ ○ ▲ ○ ○ △ ▲ × ▲ ○ △ ▲ × ▲ ▲ △ ▲ × ▲ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ▲ ○ ○ ○ ▲ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ▲ ○ ○ ▲ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ △ ○ ○ ○ ○ ○ × ▲ ○ ○ ▲ ▲ ▲ × × ▲ ○ × × × ○ ○ ○ ○ ○ ○
生 消 炭 硫 水 石 灰 碳 ケ 灰 力 ル	石 灰 灰 石 灰 灰 石 灰 灰 硫 硫 硫 炭 碳 碳 酸 酸 酸 炭 碳 碳 酸 酸 酸 ケ イ ケ 力 ル	× × × ▲ ○ × × × ▲ ○ △ ▲ ▲ ▲ ○ ○ ▲ ▲ ▲ × × × × ▲ ○ × × × ▲ ○ × × × ▲ ○	× ▲ × ▲ × ○ × ▲ △ ○ ▲ ▲ ○ ○ ○ ○ × ○ × ▲ × ○ × ▲ × ○ × ▲	△ ▲ ○ ○ ▲ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ▲ × × ○ ○ ○ ▲ × ○ ○ ○ ○ ▲ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ▲ × ○ ○ ○ ▲ × ○ ○ ○ ▲ × ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

注 ○印：混合してよいもの、▲印：混合したらすぐ用いるもの、×印：配合してはならないもの

(2) シャッタ開度と散布量の例

シャッタ開度と散布量の関係は下記の通りです。

肥料の種類と希望散布量から、シャッタ開度とトラクタの車速を決め作業してください。

表の散布量は目安ですので、正確な散布量が必要な場合は試験散布を行ってください。

散布量の目安 (kg/10a)										
		化成肥料				低水分有機肥料				
		 ◎		肥料落下口 化成肥料用		 ◉		肥料落下口 低水分 有機肥料用		
		作業速度	散布幅 2.5m				散布幅 2.5m			
使用 キヤンバ スアタツ チ	シャッタ開度	1km/h	30	15	10	10	60	30	15	5
	2	75	40	25	20	215	110	70	55	
	3	120	60	40	30	470	235	155	120	
	4	165	80	55	40	820	410	275	205	
	5	210	105	70	50	1265	630	420	315	
	6	250	125	85	65	-	-	-	-	
	7	280	140	95	70	-	-	-	-	
	8	300	150	100	80	-	-	-	-	
スピンナ ー散布	シャッタ開度	1km/h	2km/h	3km/h	4km/h	1km/h	2km/h	3km/h	4km/h	
	1	10	5	5	5	30	15	5	5	
	2	25	15	10	5	110	55	35	25	
	3	45	20	15	10	235	120	80	60	
	4	60	30	20	15	410	205	135	100	
	5	75	35	25	20	630	315	210	160	
	6	90	45	30	20	-	-	-	-	
	7	100	50	35	25	-	-	-	-	

化成肥料

エーコープ苦土尿素入り複合磷加安472

窒素 - 磷酸 - 加里 : 14% - 17% - 12%

(菱北化成株式会社)

低水分有機肥料

くみあいCDU尿素有機入り配合肥料S839

高度化成内容

窒素 - 磷酸 - 加里 : 8% - 13% - 9%

有機質原料内容

魚粉末	蒸製骨粉	脱脂米ぬか	ナタネ油粕
10%	31%	10%	4%
合 計		55%	

(片倉チッカリン)

### (3) 混合・散布を行う場合

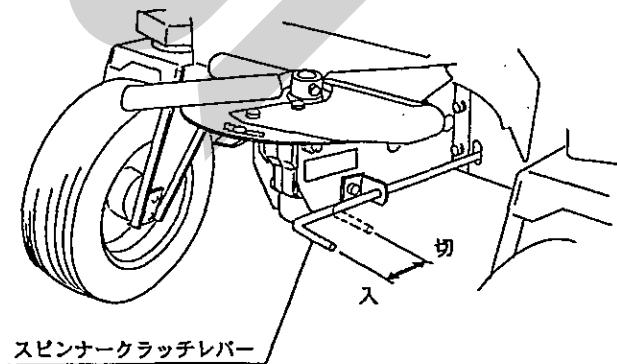
#### ▲ 警告

- オーガが回転している時、スピナークラッチを「入」にすると、急にスピナーが回転し、巻き込まれケガをすることがあります。  
オーガが回転している時、スピナークラッチを操作しないでください。

#### ▲ 注意

- 肥料の投入をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをすることがあります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

- ① エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- ② 散布シャッタ、取り出しシャッタを閉じてください。
- ③ ホッパカバーを開いてください。
- ④ 肥料を比重の軽い物、または、全体量の多い物からホッパに投入してください。
- ⑤ 肥料の投入が完了したら、ホッパカバーを閉じて、ロックしてください。
- ⑥ スピナークラッチレバーを「入」の位置にします。
- ⑦ エンジンを始動してください。
- ⑧ PTOクラッチを入れて、オーガを回転させ混合を行います。
- ⑨ 肥料が十分に混合できたら、トラクタの走行クラッチレバーを入れて作業速度で走行せます。
- ⑩ 次に散布レバーを引き、肥料の散布を行ってください。



### (4) 混合のみを行ない取出口から取り出す場合

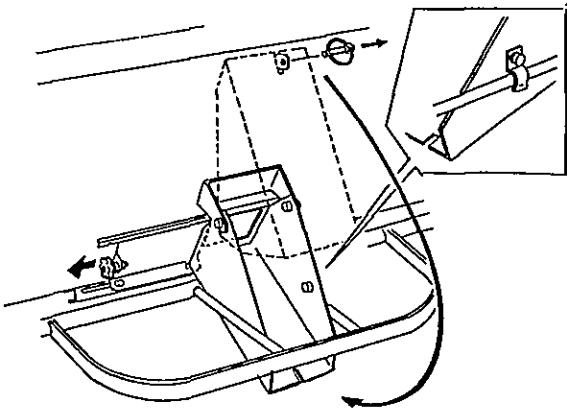
#### ▲ 警告

- 取出口の肥料付着を除去する時、エンジンをとめずに行うと、回転物に巻きこまれケガをすることがあります。  
エンジンをとめて、棒状のもので除去してください。
- スピナークラッチを入れたまま取出口から肥料を取り出すと、スピナーに巻き込まれケガをすることがあります。  
エンジンをとめ、スピナークラッチを切ってください。
- 運転中又は回転中、取出口に手および棒状のものを入れると回転物に接触し、ケガをすることがあります。  
手および棒状のものを入れないでください。

#### ▲ 注意

- 肥料の投入をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをすることがあります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

- ① エンジンを停止して駐車ブレーキをかけてください。
- ② 散布シャッタ、取り出しシャッタを閉じてください。
- ③ ホッパカバーを開いてください。
- ④ 肥料を比重の軽い物、または、全体量の多い物からホッパに投入してください。
- ⑤ 肥料の投入が完了したら、ホッパカバーを閉じて、ロックしてください。
- ⑥ スピナークラッチレバーを「切」の位置にします。
- ⑦ 作業機の取り出しシートを固定しているリンチピンをはずし、取り出しシートを作業位置にロックしてください。
- ⑧ エンジンを始動してください。
- ⑨ PTOを入れて、オーガを回転させ、混合を行います。
- ⑩ 取り出しシートの下に肥料を受ける容器を置き、取り出しシャッタを開きます。
- ⑪ 容器がいっぱいになったら、取り出しシャッタを閉じてください。

**作業時の注意**

- 肥料をホッパに均平になるように投入すると早く混ざります。
- 肥料の混合時間はおよそ2分半を目安に行ってください。  
尚、運転中の混合状態を確認する時は、ホッパカバー上の穴から目視で行ってください。

**4. シャーボルト切断時の注意****▲ 注意**

- 調整や付着物の除去などをする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをすることがあります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

異物が噛み込んだり、過負荷が発生した時、シャーボルトが切断し作業機を保護します。

シャーボルトが切断した時は必ず原因を調べ、原因を取り除いてから交換してください。

- (1) 異物が原因の時は異物を取り除いてください。
- (2) 水分の多い肥料を投入し、シャーボルトが切断した場合は、水分調整用資材を投入し、水分を調整してください。
- (3) 比重の大きい肥料や粒径の大きい肥料を投入し、シャーボルトが切断した場合は、投入量を減らし、シャーボルトが切断しない量で作業してください。  
投入量は作業機側面の積載量ラベルを目安にしてください。
- (4) シャーボルトは「5-2-2 シャーボルトの交換」に基づき交換してください。

**▲ 警 告**

- 旋回する時、作業機が旋回方向とは逆方向にふくれるため、周囲の人々に接触しケガをさせたり、対向物・障害物に衝突しケガをすることがあります。  
周囲の人々や対向物・障害物との間に十分な間隔を保って行ってください。
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると、転落事故を起こす事があります。路肩は走行しないでください。
- 高低差が大きい段差を乗り越えようとするとき、トラクタが転落あるいは横転し、ケガをすることがあります。あゆみ板を使用してください。
- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをすることがあります。  
また、物を載せて走行すると、落下し、周囲の人々へケガを負わせることがあります。  
作業機の上には、人や物などはのせないでください。

**▲ 注意**

- P TOを切らないで走行すると、周囲の人々を回転物に巻き込み、ケガを負わせることがあります。  
移動走行する時は、P TOを切ってください。

1. トラクタのP TOを切ってください。
2. 本作業機は3P直装または3Pけん引で移動できます。

3点リンクで作業機を持ち上げてトラクタ前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定な場合は、3Pけん引で移動してください。

## 4 作業が終わったら

### 1 作業後の手入れ

#### ▲注意

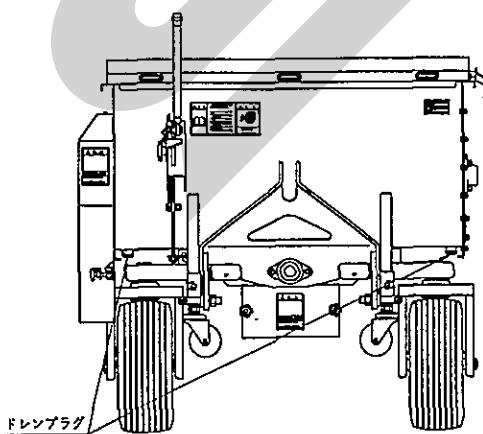
- 作業後の手入れをする時、傾斜地や凸凹地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 作業後の手入れをする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 作業後の手入れをする時、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。  
作業機を接地して行ってください。

1. ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落がないか。又、破損部品がないか確認してください。

異常があれば、ボルトの増し締め、部品の交換をしてください。

2. 作業終了後は水洗いし、ホッパ内の肥料をきれいに流してください。

ホッパ内の水抜きは、進行方向下に付いている2ヶ所のドレンプラグを外してください。水抜きが完了したらドレンプラグは元の位置にしっかりと差し込んでください。



3. PTO軸、P I C軸、ジョイントのスライド部など塗装されていない露出部は、錆を防ぐためグリースを塗布してください。

### 2 トラクタからの切り離し

#### ▲危険

- パワージョイントを外す時、エンジンをとめずに行うと、思いがけない原因でパワージョイントが回転しケガをする事があります。  
エンジンをとめて行ってください。

#### ▲注意

- 作業機をトラクタから切り離す時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因でトラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- オートヒッチフレームを切り離す時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因でトラクタが動き、事故を起こす事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

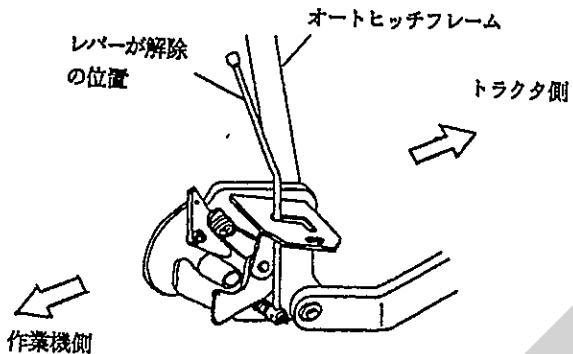
#### 1. 標準タイプの切り離し

- ① スタンドを降ろし、ピンで固定してください。
- ② トラクタの油圧レバーを操作し、スタンドが地面に接するまでミキシングスプレッダをさげてください。
- ③ トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- ④ PTO軸からパワージョイントを外してください。
- ⑤ トップリンク、右ロワーリンク・左ロワーリンクの順でトラクタから切り離してください。

#### 2. 3 Sタイプの切り離し

- ① スタンドを降ろし、ピンで固定してからトラクタの油圧レバーを操作し、スタンドが地面に接地しない程度にミキシングスプレッダを下げてください。
- ② トラクタPTO軸からパワージョイントを外してください。
- ③ オートヒッチフレームのレバーを解除の位置にしてください。

- ④ トラクタの油圧レバーを操作し、スタンドが地面に接するまでミキシングスプレッダを静かにさげ、オートヒッチフレーム下部のフック部がロワーリンクピンから外れていくのを確認しながらトラクタをゆっくり前進させてください。
- ⑤ トラクタの油圧レバーを操作し、オートヒッチフレームを下までさげて、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- ⑥ オートヒッチフレームからトップリンクを外し、オートヒッチフレームの上部が接地するまで後方に倒してください。
- ⑦ 右側ロワーリンクを外した後、左側のロワーリンクを外してください。



### 3 長期格納する時

1. 機体各部の清掃をしてください。
2. 摩耗した部品、破損した部品は交換してください。
3. 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき、油脂を補給してください。  
また、回転、回動支点およびパワージョイントのクランプピンを含む摺動部には注油し、PTO軸、P.I.C軸、パワージョイントのスプライン部にはグリースを塗布してください。
4. 塗装損傷部を補修塗装または油を塗布し、錆の発生を防いでください。
5. 格納は風通しのよい屋内に保管してください。

## 5 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。  
機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態で、安心して作業が行えるようにしてください。

### ▲ 注意

- 点検整備をする時、傾斜地や凸凹地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こす事があります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 点検整備をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをする事があります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 点検整備をする時、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをする事があります。  
作業機を接地して行ってください。
- 作業をする時、カバー類を外して作業すると、ケガをする事があります。  
点検整備の後は、カバー類を元通りに取り付けてください。
- 運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれケガをする事があります。  
カバーを開けないでください。

### 1 点検整備一覧表

時 間	チェック項目	処 置
新品 使用 1 時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
使 用 毎 (始業終業点検)	①機械の清掃 • ホッパ内 ②部品脱落・破損部 ③各部のボルト・ナットの緩み ④各部油もれ ⑤各部の油脂類 ⑥タイヤ空気圧	肥料の清掃 補充・交換 増し締め シールチェック、破損時交換 「2-3 純油箇所一覧表」に基づき給油、給脂 206kPa(2.1kg/cm <sup>2</sup> )
シーズン終了後	①ギヤボックスのオイル ②各部の破損、摩耗 ③各部の清掃 ④各部の給油・給脂 ⑤塗装損傷部	交換 早めの部品交換 「2-3 純油箇所一覧表」に基づき給油、給脂 塗装または油塗布

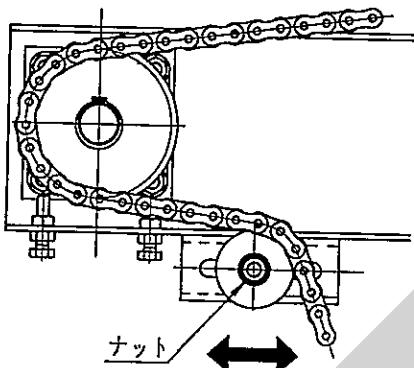
## 2 各部の調整

### 1. ローラチェーンの張り調整

ローラチェーンは、使用するにつれて少しづつ伸びが生じます。  
円滑な動力の伝達をするために、ローラチェーンの張り調整を行ってください。  
特に、最初の使用では初期伸びが生じますので、  
使用後に必ず張り調整を行ってください。

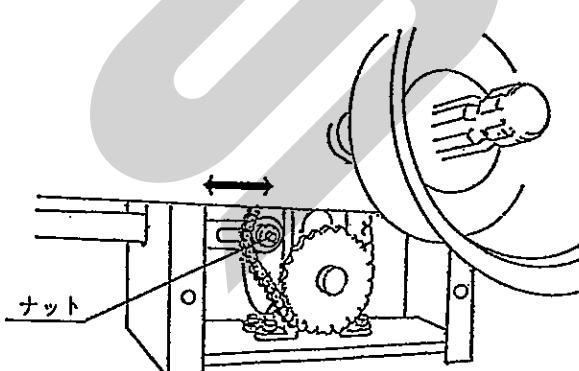
#### (1) オーガ駆動部

ナットを緩め、ローラを動かしてローラチェーンの張りを調整し、ナットを締めてください。  
張りの強さは、ローラチェーンの中央部を指で押してたわみ量が8mmになるのが適正です。



#### (2) ウォームボックス入力部

ナットを緩め、ローラを動かしてローラチェーンの張りを調整し、ナットを締めてください。  
張りの強さは、ローラチェーンの中央部を指で押してたわみ量が3mmになるのが適正です。

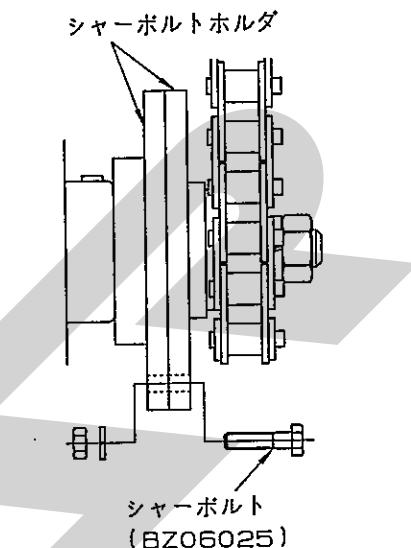


### 2. シャーボルトの交換

過負荷から各部を守るために、シャーボルトを装備しています。シャーボルトの交換は、次の手順で行ってください。

#### (1) PTOをOFFにし、エンジンをとめてください。

- (2) 切断されたシャーボルトをシャーボルトホルダから取り除いてください。
- (3) スピンナーを手で回し、シャーボルトホルダの穴を合わせてください。
- (4) シャーボルトを団の方向で通し、ナットとバネザガネで固定してください。
- (5) シャーボルトは当社指定のボルトを使用してください。



#### 取扱い上の注意

- シャーボルトの切断の原因を取り除かずに、新しいシャーボルトを取り付けても、再度、切断されます。  
必ず原因を調べ、その原因を取り除いてから行ってください。
- 当社指定外のシャーボルトを使用すると、過負荷に対し切断されず、機体各部の破損原因になったり、正規の使用状態にもかかわらず、すぐにシャーボルトが切断されることがあります。  
当社指定のシャーボルトを使用してください。
- 当社指定のシャーボルトを使用していても、高速回転でPTOを入れたり、本作業機の適正回転数以外で使用すると、シャーボルトが切断されることがあります。  
PTOの接続は、低速回転で接続後、本作業機の適正回転数にセットして作業してください。

## 6 不調時の対応

### ▲ 注意

- 不調対応処置・点検・整備をする時、傾斜地や凸凹地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こすことがあります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 不調対応処置・点検・整備をする時、エンジンをとめずに、あるいは、駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が駆動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをすることがあります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。

- 不調対応処置・点検・整備をする時、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをすることがあります。  
作業機を接地して行ってください。
- 作業をする時、カバー類を外して作業すると、ケガをすることがあります。  
不調対応処置・点検・整備の後は、カバー類を元通りに取り付けてください。
- 運転中又は回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれケガをすることがあります。  
カバーを開けないでください。

### 1 不調処置一覧表

症 状	原 因	処 置
異常音・異常振動	チェーンが緩み、スプロケットがとぶ	チェーンの張り調整
シャッタが動かない	シャッタとボトムプレートの間に肥料が詰まる	清掃
	回動支点部がさび付いている	さびを取り除きグリースを塗布する
肥料がでない	使用している肥料の水分が高い	ホッパ内部を清掃し乾燥した肥料を使用する
オーナーが動かない	シャーボルトの切断	「3-4-3 肥料投入時の注意」に基づき切断原因を取り除く

原因や処置のしかたがわからない場合は、下記事項とともに購入先へご相談ください。

- 製品名
- 部品供給型式
- 製造番号
- 故障内容(できるだけ詳しく)

# 7 オプション

## 1 キャンバスカバーアタッチメント

比重が異なる肥料の散布、幅規制が必要な場合などは、キャンバスカバーをミキシングプレッダに装着して使用してください。

### ▲ 注意

- キャンバスカバーを着脱・調整する時、傾斜地や凸凹地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出し、事故を起こすことがあります。  
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- キャンバスカバーを着脱・調整する時、エンジンをとめずに、あるいは駐車ブレーキをかけずに行うと、思いがけない原因で作業機が運動し、あるいは、トラクタや作業機が動き出し、ケガをすることがあります。  
エンジンをとめて、駐車ブレーキをかけて行ってください。
- キャンバスカバーを着脱・調整する時、作業機を接地しないで行うと、思いがけない原因で作業機が降下してケガをすることがあります。  
作業機を接地して行ってください。

### 1. キャンバスカバーの組立・装着

#### (1) 解梱

木枠に固定している部品をほどき、必要部品が揃っているか確認してください。

#### (2) 組立

- ① メインフレームにフレームL、Rを組付けてください。

連結部分は動くように調節してください。

- ② 敷設幅が2.2m～2.5mの範囲のときは、延長部品(プレート、アングル)を使用しますので、組付けてください。

組付け方法は「敷設幅の調整方法」を参照してください。

- ③ メインフレームのフック部をスピナーガードに引っかけ、頭付ピンを差しこみバーティンで固定してください。

- ④ キャンバスBをメインフレームに組付けてください。

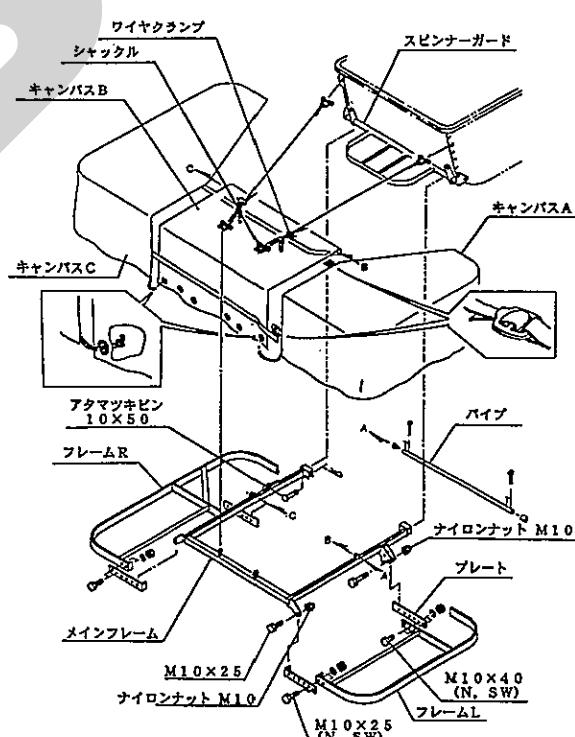
図の様にパイプをキャンバスBとメインフレームに通し、ワリピン、キャップの順に組付けます。

キャンバスBに付いているヒモでメインフレームに固定します。

- ⑤ メインフレームが地面と水平になるよう、ワイヤーとリンクチェーンでつり下げてください。

- ⑥ キャンバスAとCをフレームL、Rに組付けてください。キャンバスに付いているヒモでフレームに固定します。

- ⑦ キャンバスAとCをベルトでつなぎ、たるみを取り、下部に縫い付けてあるロープをキャンバスBのハトメに通し、ばたつかない様に玉結びを作ります。



## 1. キャンバスカバーの折りたたみ方法

### (1) 側方部の折りたたみ方

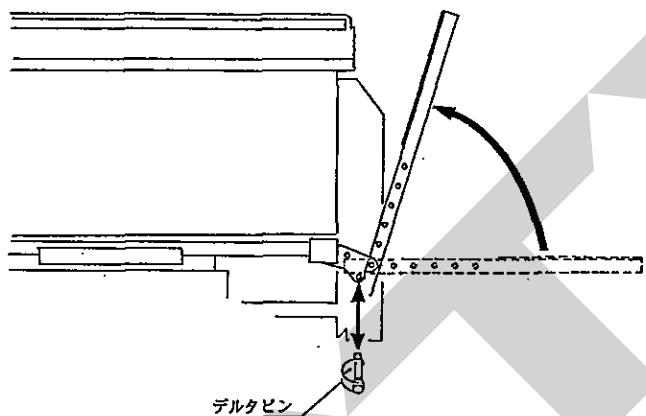
狭い場所での移動やハウスに入り出す時に、左右のフレームを上方に折りたたむことができます。

#### [ 折りたたみ方 ]

- ① 固定用のデルタピンを外します。
- ② 左、右フレームを持ち上げます。
- ③ デルタピンを元の位置に戻し、折りたたんだ状態で固定します。

#### [ 開き方 ]

- ① 折りたたんだ状態の左、右のフレームを手で支え、急に開かないように注意します。
- ② 固定用のデルタピンを外し、フレームを開きます。
- ③ デルタピンは元の位置に戻してください。

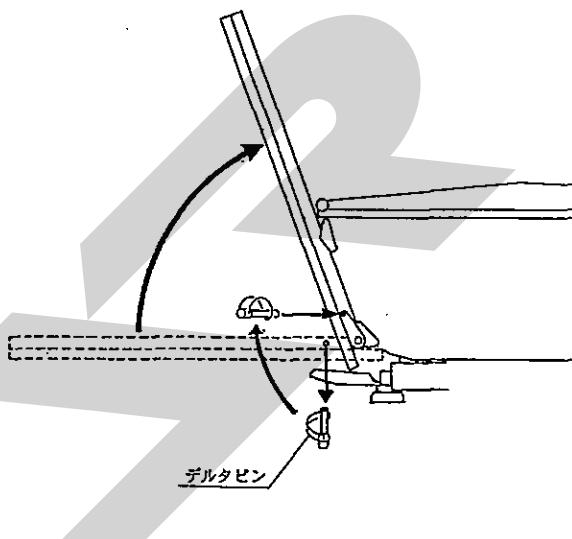


#### [ 開き方 ]

- ① キャンバスカバーが倒れないように支えます。
- ② キャンバスカバーを固定しているデルタピンを外します。
- ③ キャンバスカバーを降ろし、デルタピンをメインフレームの穴に戻します。

#### [ 取扱い上の注意 ]

- 移動時は、キャンバスカバー前方・側方の両方を折りたたんでください。



#### [ 取扱い上の注意 ]

- 折りたたむ時はキャンバスが、フレームの連結部分に挟まったり、引っ掛からないように十分注意してください。
- キャンバスカバーの折りたたみは移動時のみとし、PTOは切ってください。  
スピナーが回転しているとキャンバスに接触して機械を破損する事があります。

### (2) 前方部の折りたたみ方

格納時や運搬機(トラック等)による移動時に、キャンバスカバー全体を上方に折りたたむことができます。

#### [ 折りたたみ方 ]

- ① メインフレームについているデルタピン2本を外してください。
- ② キャンバスカバー全体を本体側へ持ち上げます。
- ③ メインフレームの穴とスピナーガードのステーの穴が合う位置まで持ち上げ、デルタピンを両方の穴に通し、キャンバスカバーを固定してください。

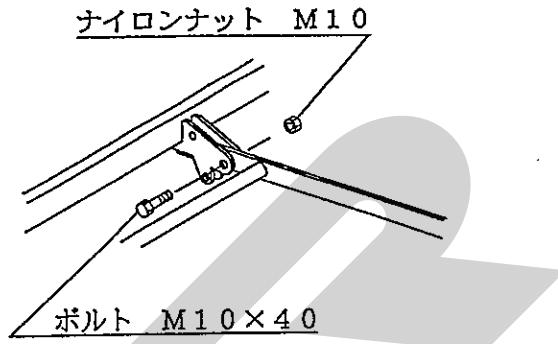
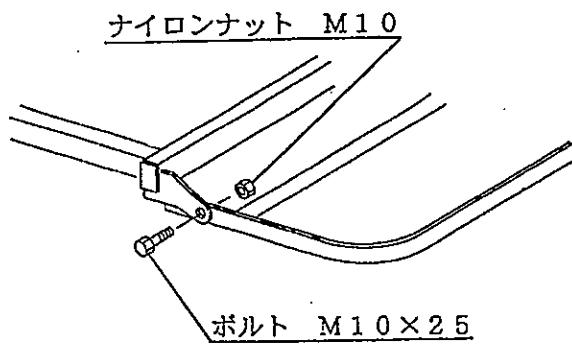
### 3. 散布幅の調整

キャンバスカバーを使用すると、2.0~2.5m範囲で散布幅の調整ができます。  
出荷時は2.2mに調整してあります。

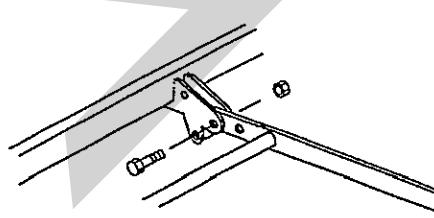
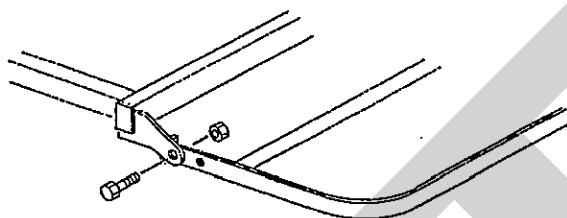
2. 0m~2.1mに調整する場合は、延長部品(プレート・アングル)を取りはずしてください。  
延長部品は大切に保管してください。  
調整方法は図を参照してください。

#### (1) 2.0~2.1mの調整

① 2.0mに調整する時

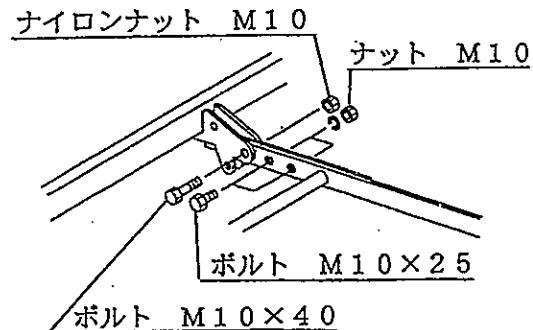
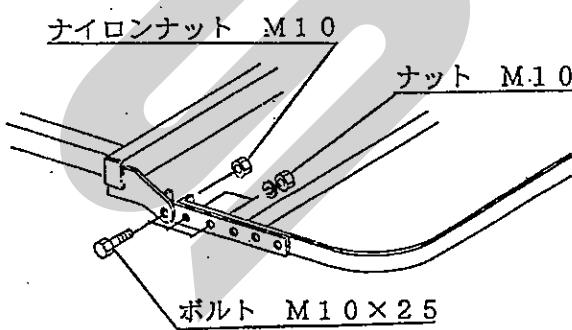


② 2.1mに調整する時

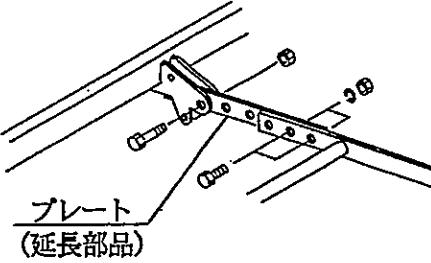
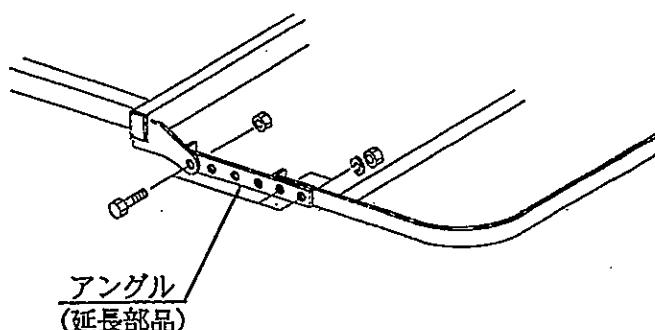


#### (2) 2.2~2.5mの調整

③ 2.2m(出荷時)に調整する時



④ 2.5mに調整する時



## 8 部 品 表

### 部品のご注文について

### 補修部品の供給年限について

1. 部品ご注文の際は、下記項目をご連絡ください。

- ① 製品名
- ② 部品供給型式（型式）
- ③ 部品名称（部品表を参照してください。）
- ④ 部品番号（部品表を参照してください。）
- ⑤ 個 数（部品表を参照してください。）

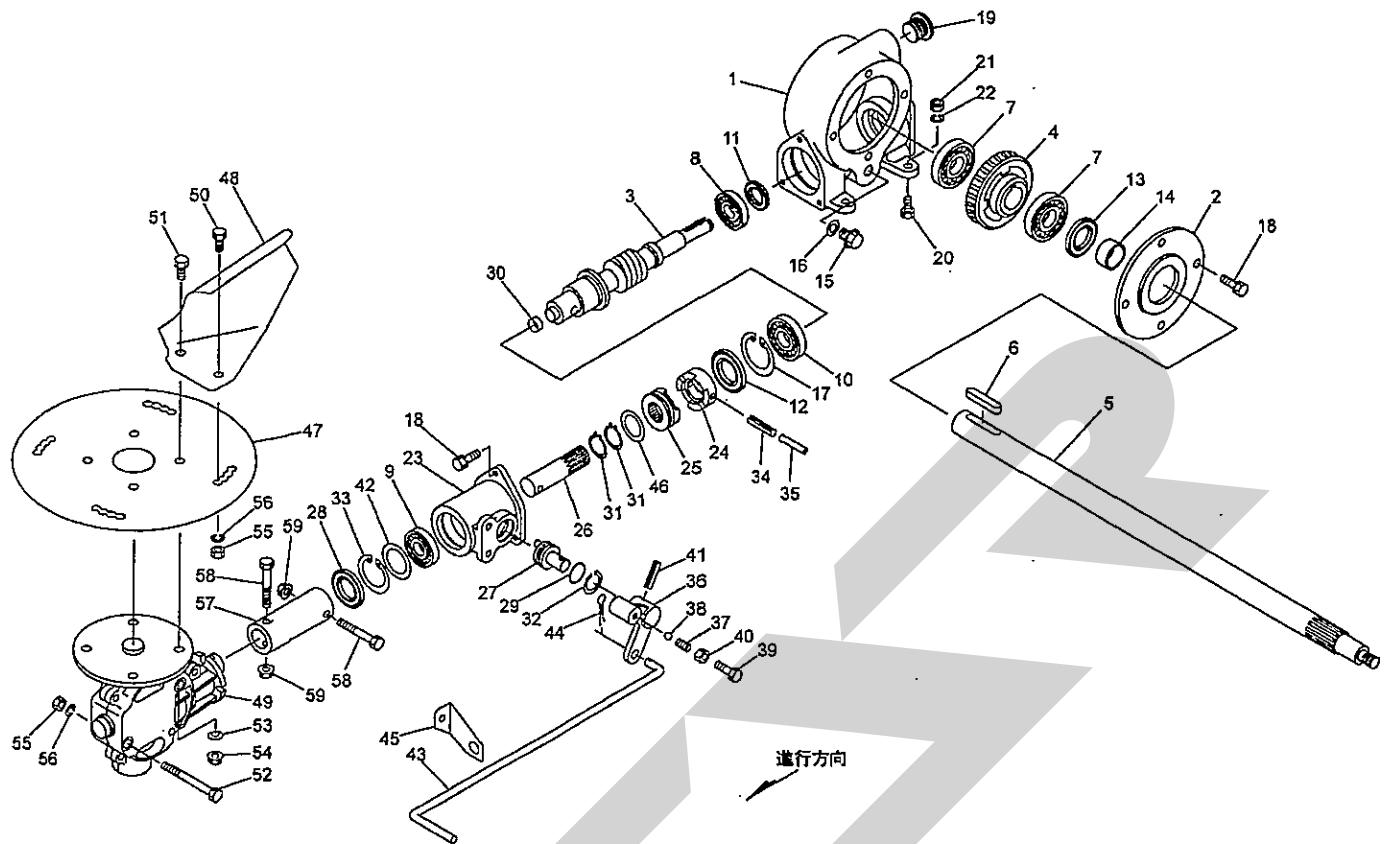
※ 部品供給型式は取扱説明書・部品表表紙および本体に貼付のネームプレートに表示しています。

2. 個数欄の 、 は、以下のことを表しております。

- … シムなど、組み込まれている個数が製品個々により異なる部品
- … アッセイ品に含まれる部品で単品では供給しない部

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合は納期および価格についてご相談させていただきます。

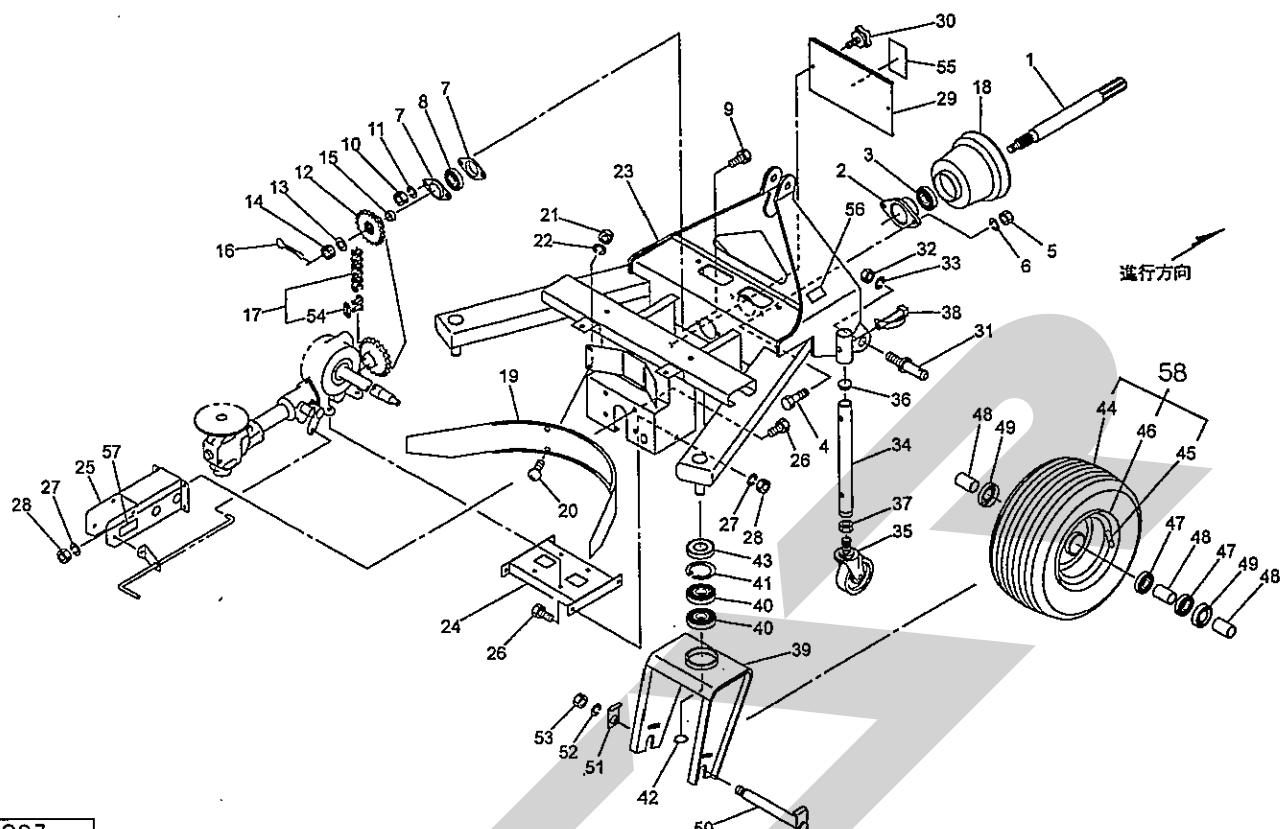


13282

065-0008-1001

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	1250470004	ウォームボックス	1	
2	1135880004	キャップ	1	
3	1216761000	ウォームC P	1	
4	1136120000	ウォームホイール	1	
5	1250620004	シャフト	1	
6	KFC08070450	ハイコウキー リョウマル 8×7×45	1	
7	J6206	ボールベアリング 6206	2	
8	J6204	ボールベアリング 6204	1	
9	J6005	ボールベアリング 6005	1	
10	J6007	ボールベアリング 6007	1	
11	D20357	オイルシール D20×35×7	1	
12	D356210	オイルシール D35×62×10	1	
13	D35507	オイルシール D35×50×7	1	
14	SI303517	スリーブ S130×35×17	1	
15	000338000M	M10プラグ	1	
16	0003390000	パッキン (M10プラグヨウ)	1	
17	DHC062	Cガタトメワ アナ 62	1	
18	BSPZ08025	コガタSWツキボルト 7 M8×25	7	
19	0007170000	チューユセン	1	
20	BSZ08030	コガタボルト 7 M8×30	4	
21	NSZ08	コガタナット 8 2シュー M8	4	
22	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	4	
23	1137210004	クラッチケース	1	
24	1216740000	クラッチ; 1	1	
25	1136190000	クラッチ; 2	1	

## MXS0510 ミキシングスプレッダ ウォームギヤボックス・スピナ



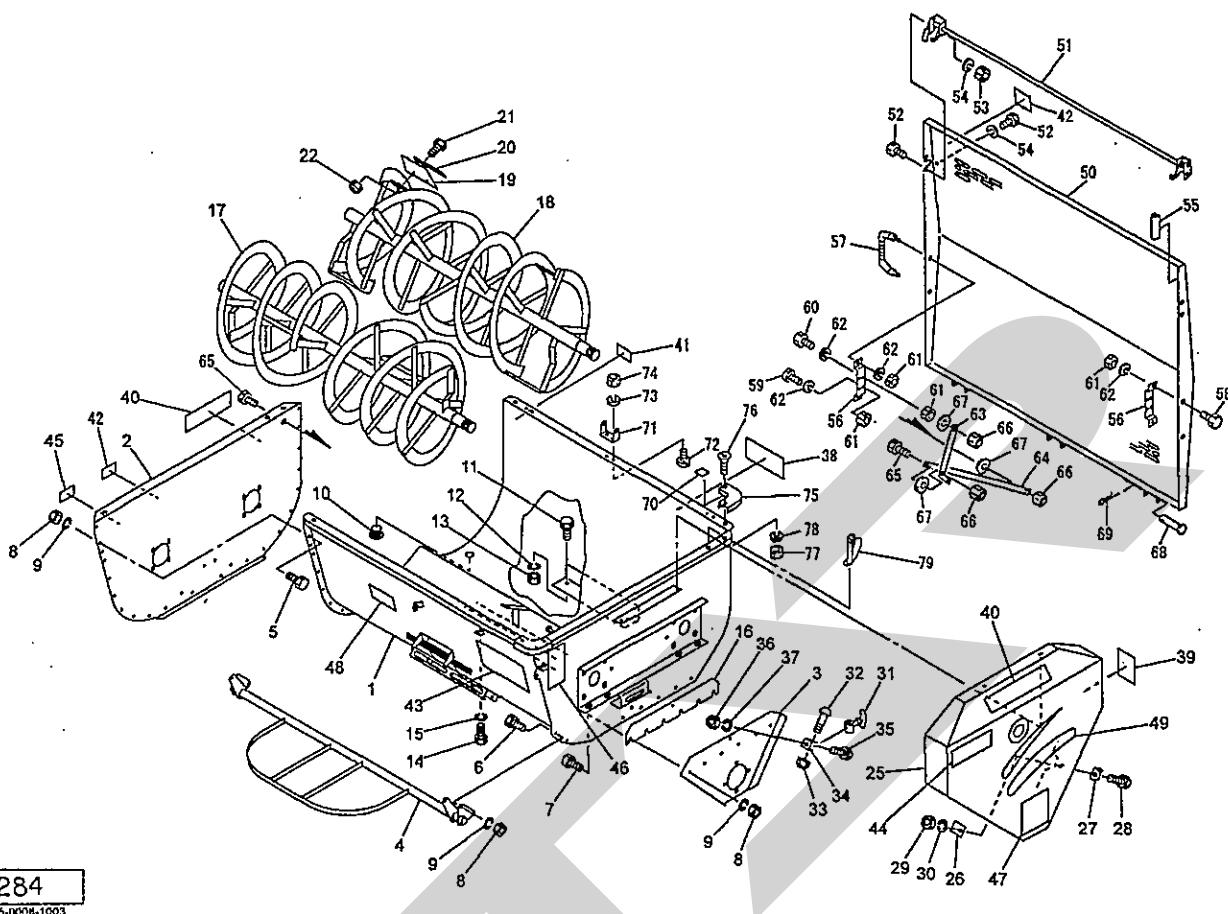
13283

055-0008-1002

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	1168550000	PICシャフト	1	
2	092756200D	メタル；PIC	1	
3	JCS206LLU	ユニットヨウペアリング CS206LLU	1	
4	BSZ10035	コガタボルト 7 M10×35	2	
5	NSZ10	コガタナット 8 2シュー M10	2	
6	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	2	
7	JPFL205G	バイフランジ ヒシ PFL205	2	
8	JCS205LLU	ユニットヨウペアリング CS205LLU	1	
9	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	2	
10	NSZ08	コガタナット 8 2シュー M8	2	
11	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	2	
12	116854000D	スプロケット；21T	1	
13	077693300M	ワッシャ；16	1	
14	NC2L16150	キャッスルナット 2シュヒク M16×1.50	1	
15	116861000M	カラー；φ27.6×12.5	1	
16	PC040032	ワリピン 4×32	1	
17	LA40048	ローラーチェーン 40×48L	1	
18	0008230000	PICカバー；1	1	
19	1217091000	ガード	1	
20	CP08016	ナナベコネジ M8×16	4	
21	NSZ08	コガタナット 8 2シュー M8	4	
22	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	4	
23	1251160004	フレームCP	1	
24	1251320004	ウォームベースCP	1	
25	1251350000	ブラケット	1	

MXS0510 ミキシングスプレッダ  
MXSパーティ・3Pフレーム・キャスター・タイヤ

## MXS0510 ミキシングスプレッダ ホッパ・オーガ・カバー

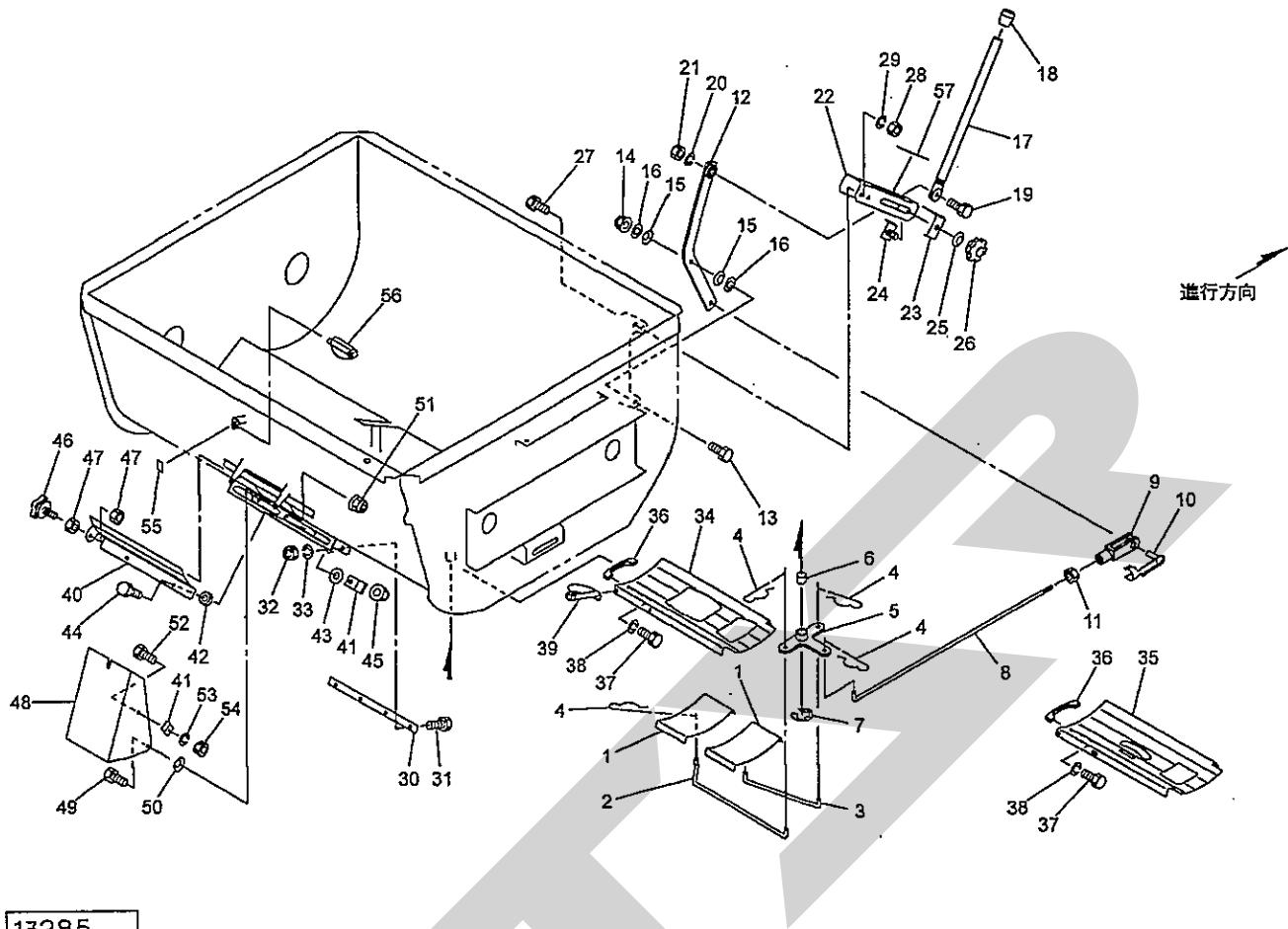


13284

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	1251610003	ホッパCP	1	
2	1252100003	サイドプレート；R	1	
3	1252110003	チャンネル	1	
4	113931000M	スピナーガードCP	1	
5	BSZ08016	コガタボルト 7 M8×16	22	
6	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	4	
7	BSZ08025	コガタボルト 7 M8×25	7	
8	NSZ08	コガタナット 8 2シュー M8	33	
9	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	33	
10	0007170000	チューユセン	2	
11	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	2	
12	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	2	
13	NSZ10	コガタナット 8 2シュー M10	2	
14	BZ12030	ボルト 8.8 M12×30	4	
15	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	4	
16	1252230000	シム	2	
17	1250510004	オーガCP；1	1	
18	1250570004	オーガCP；2	1	
19	1135851000	スクレーパ	2	
20	116229000M	プレート	2	
21	BC08025	ボルト ステン M8×25	4	
22	NNC08	ナイロンナット ステン M8	4	
25	1251380003	カバーCP	1	
26	114109000M	プレート	2	
27	043000400M	カバーロック (1) メッキ	2	

## MXS0510 ミキシングスプレッダ ホッパ・オーガ・カバー

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
28	BSZ08020	コガタボルト 7 M8×20	2	
29	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	2	
30	WSA08	バネザガネ 3ゴウM8	2	
31	0665561000	ボンネットキャッチ	2	
32	CP06035	+ナベコネジ M6×35	2	
33	NNF06	フランジナイロンナット M6	2	
34	043001401M	カバーロック (2) メッキ	2	
35	BSZ08016	コガタボルト 7 M8×16	2	
36	NSZ08	コガタナット 8 2シュ M8	2	
37	WSA08	バネザガネ 3ゴウ M8	2	
38	1065360000	ラベル；ケイコク 122	1	
39	1061710000	ラベル；ケイコク 8	1	
40	1232800000	STARマークラベル；40	2	
41		D型ネームプレート	1	
42	1065650000	ラベル；ケイコク 151	2	
43	1065640000	ラベル；ケイコク 150	1	
44	1180920000	ラベル；ユウキケン	1	
45	1172490000	ラベル；セキサイリョウ 500	1	
46	1250760000	ラベル；セキサイヨウリョウ	1	
47	1250770000	ラベル；シャーボルト	1	
48	1250630000	ラベル；ブレードカクドチョウセツ	1	
49	1180930000	ラベル；太陽	1	
50	1264300003	カバーCP	1	
51	116275100M	カバーロックCP	1	
52	BSZ08016	コガタボルト M8×16	6	
53	NSZ08	コガタナット M8	4	
54	WSA08	バネザガネ M8	6	
55	1162980000	レギュラートリム	2	
56	116272000M	ステーウケ	2	
57	0333782000	グリップ	1	
58	BSZ08016	コガタボルト M8×16	2	
59	BSZ08020	コガタボルト M8×20	2	
60	BSZ08030	コガタボルト M8×30	2	
61	NSZ08	コガタナット M8	8	
62	WSA08	バネザガネ M8	8	
63	126435000M	ステー；1	2	
64	126436000M	ステー；2	2	
65	BSZ08020	コガタボルト M8×20	4	
66	NNF08	ナイロンナット M8	6	
67	WRA08	ヒラザガネ M8	6	
68	085743100M	ピン	3	
69	PC032020	ワリピン 3.2×20	3	
70	1179760000	エンビプレート	2	
71	113902000M	チャンネル	3	
72	BZ06012	ボルト 8.8 M6×12	6	
73	NZ06	ナット 8 2シュ M6	6	
74	WS06	バネザガネ 2ゴウ M6	6	
75	1139980003	エルボ	4	
76	CM04010	+サラコネジ M4×10	8	
77	NA04	ナット 4 2シュ M4	8	
78	WS04	バネザガネ 2ゴウ M4	8	
79	000453000M	デルタピン；9	2	



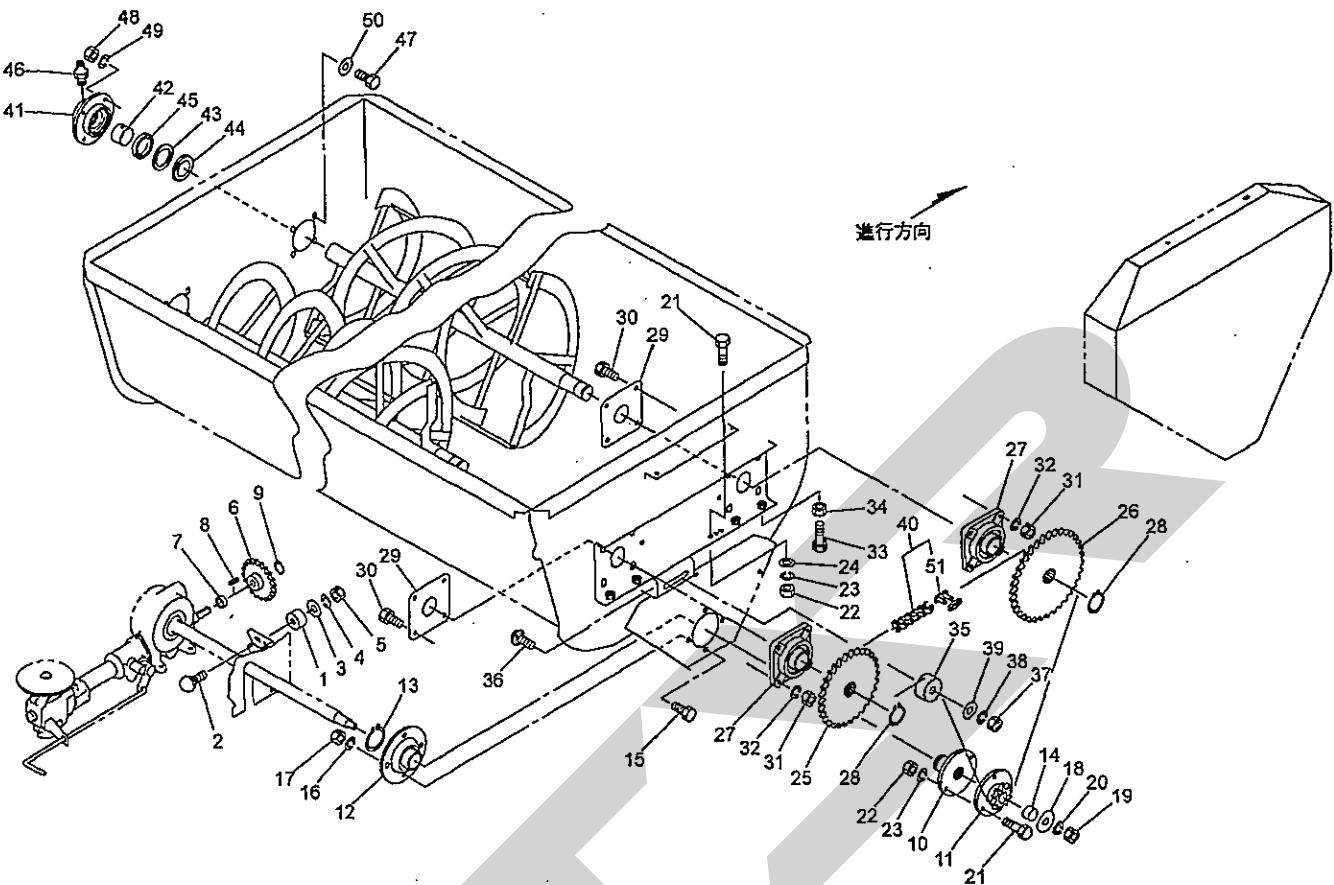
13285

085-0008-1005

見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	1136730000	シャッタCP	2	
2	125112000M	ロッド；1	1	
3	113680000M	ロッド；2	1	
4	000085200M	ベータピン；8×1.6	5	
5	113866000M	シャッターム CP	1	
6	KBB-1815A	カーボンドライバーリング A 18×20×15	1	
7	DE012	Eガタトメワ 12	1	
8	113695000M	ロッド；3	1	
9	079422000M	フォークエンド；10×40	1	
10	079423000M	ピン；10×40	1	
11	NSZ10	コガタナット 8 2シュー M10	1	
12	125225000M	アームCP	1	
13	BZ12040	ボルト 8.8 M12×40	1	
14	NNF12	フランジナイロンナット M12	1	
15	WCR1L12	サラバネザガネ 1シュケイ M12	2	
16	WRA12	ヒラザガネ M12	2	
17	092285300M	レバー CP；A メッキ	1	
18	0006880000	ニギリ；20	1	
19	BZ12045	ボルト 8.8 M12×45	1	
20	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	1	
21	NZ12	ナット 8 2シュー M12	1	
22	125109000M	セクター	1	
23	125075000M	チャンネル	1	
24	084698200M	プレート CP	1	
25	WCR1L12	サラバネザガネ 1シュケイ M12	1	

# MXS0510 ミキシングスプレッダ シャツタ・ハイシュツコウ

MXS0510 ミキシングスプレッダ  
グドウ

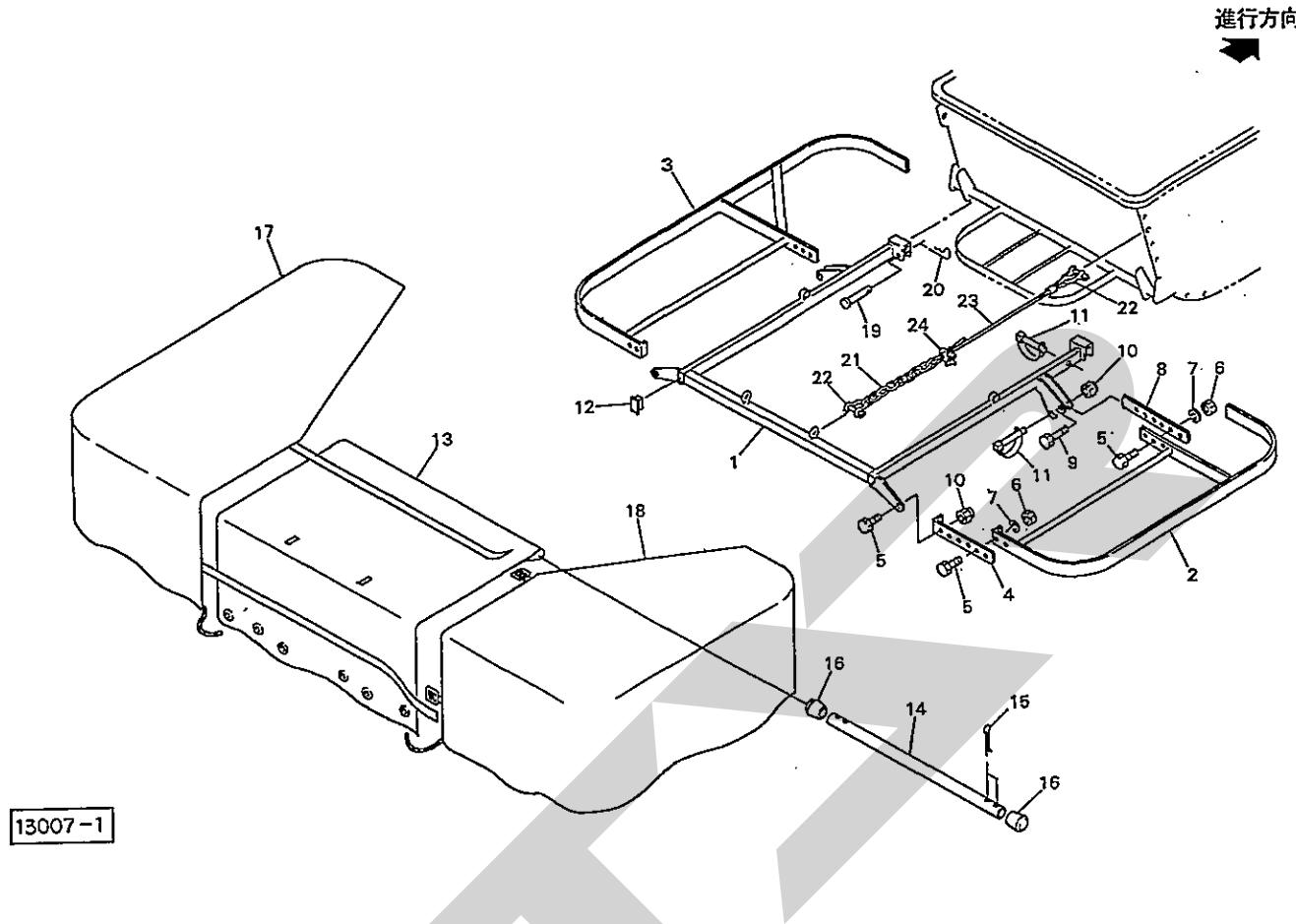


13286

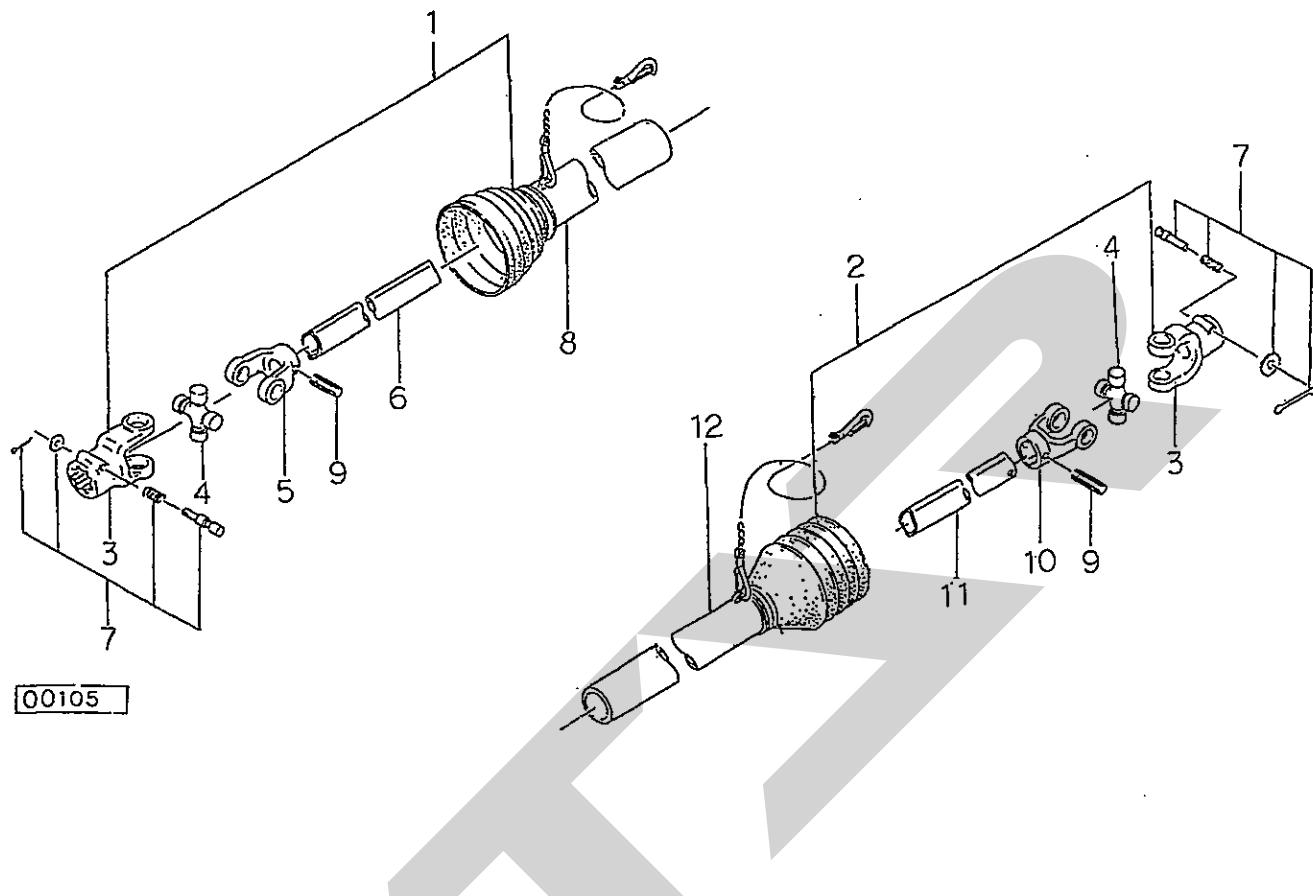
085-0008-1004

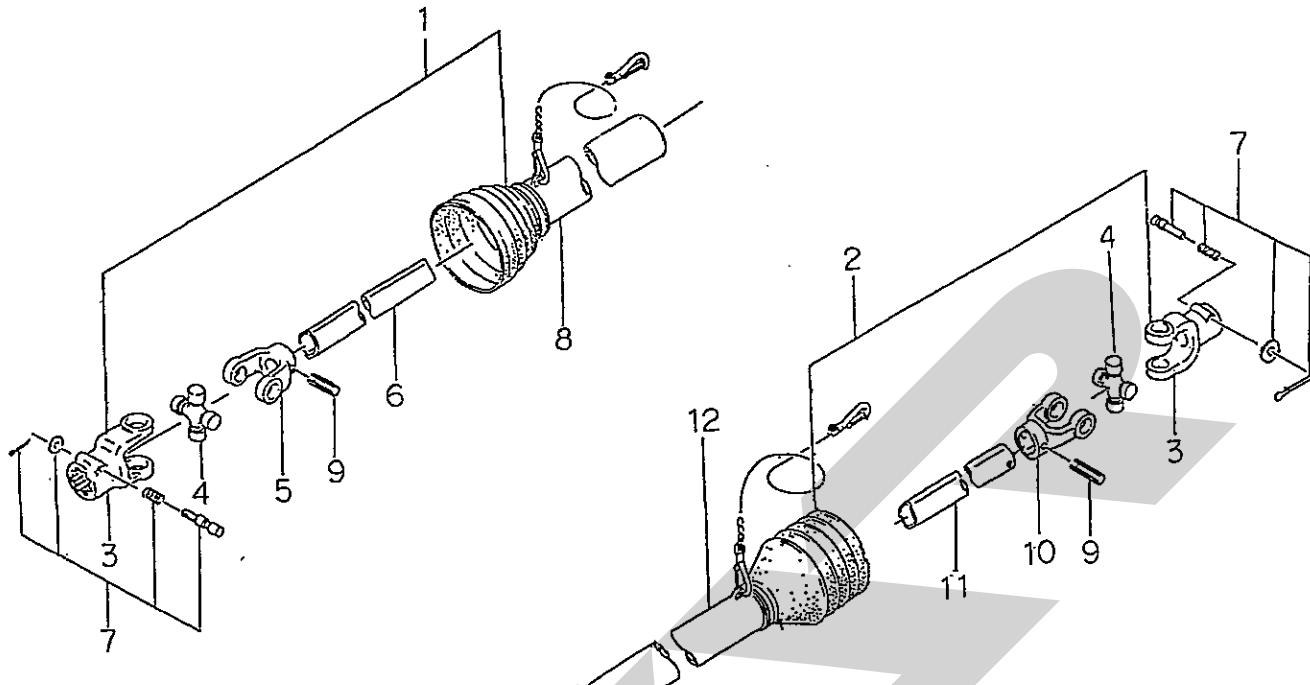
見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	1220510000	ローラ	1	
2	BR12050	カクネマルB 4.6 A1 M12×50	1	
3	042783600M	ワッシャ；12	1	
4	NZ12	ナット 8.2シュー M12	1	
5	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	1	
6	1251040004	スプロケット；28T	1	
7	115573000M	カラー；16.1×10	1	
8	KFD05050230	ヘイコウキー リョウヒラ 5×5×23	1	
9	DC015	Cガタトメワ ジク 15	1	
10	1251080004	シャーボルトホルダ	1	
11	1251050004	スプロケットCP	1	
12	JASPF208G	ペアリングユニット ASPF208	1	
13	DC040	Cガタトメワ ジク 40	1	
14	70B-2530	ドライメントブッシュ 25×28×30	1	
15	BZ12030	ボルト 8.8 M12×30	4	
16	NZ12	ナット 8.2シュー M12	4	
17	WSA12	バネザガネ 3ゴウ M12	4	
18	042322200M	ワッシャ；16	1	
19	NZ14	ナット 8.2シュー M14	1	
20	WSA14	バネザガネ 3ゴウ M14	1	
21	BZ06025	ボルト 8.8 M6×25	4	
22	NZ06	ナット 8.2シュー M6	4	
23	WS06	バネザガネ 2ゴウ M6	4	
24	WRA06	ヒラザガネ M6	3	
25	1251000004	スプロケット；32T	1	

## MXS0510 ミキシングスプレッダ クドウ



見出番号	部品番号	部品名称	個数	備考
1	114775000D	メインフレームCP	1	
2	114759000D	フレームCP; L	1	
3	114763000D	フレームCP; R	1	
4	114712000D	アングル	2	
5	BSZ10025	コガタボルト 7 M10×25	10	
6	NSZ10	コガタナット 8 2シュー M10	8	
7	WSA10	バネザガネ 3ゴウ M10	8	
8	114713000D	プレート	2	
9	BSZ10040	コガタボルト 7 M10×40	2	
10	NNF10	フランジナイロンナット M10	4	
11	000453000M	デルタピン; 9	4	
12	CAP040020	キャップ 40×20×1.6	2	
13	1147100000	キャンバス; B	1	
14	114782000D	パイプ	1	
15	PC050036	ワリピン 5×36	4	
16	1147950000	キャップ	2	
17	1147090000	キャンバス; A	1	
18	1147110000	キャンバス; C	1	
19	000058200M	ピン; B 10×50	2	
20	000085200M	ペータピン; 8×1.6	2	
21	CZ050006	リンクチェーン ザツヨウ 5×27.5P×6	2	
22	SSC0620	シャックル 6-1/4	4	
23	1147710000	ワイヤCP	2	
24	0653191000	ワイヤクリップ	2	





00105



本 社 066-8555 千歳市上長都1061番地2  
TEL 0123-26-1123  
FAX 0123-26-2412

千歳営業所 066-8555 千歳市上長都1061番地2  
TEL 0123-22-5131  
FAX 0123-26-2035

旭川営業所 070-8004 旭川市神楽4条9丁目3番35号  
TEL 0166-61-6131  
FAX 0166-62-8985

豊富営業所 098-4100 天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地  
TEL 0162-82-1932  
FAX 0162-82-1696

帯広営業所 080-2462 带広市西22条北1丁目12番地  
TEL 0155-37-3080  
FAX 0155-37-5187

北見営業所 090-0001 北見市小泉302  
TEL 0157-24-3880  
FAX 0157-61-1344

中標津営業所 086-1152 標津郡中標津町北町2丁目16番2  
TEL 01537-2-2624  
FAX 01537-3-2540

花巻営業所 025-0312 岩手県花巻市二枚橋第三地割333-1  
TEL 0198-26-5741  
FAX 0198-26-5746

仙台営業所 985-0845 宮城県多賀城市町前2丁目4番27号  
TEL 022-367-4573  
FAX 022-367-4846

小山営業所 323-0158 栃木県小山市梁2512-1  
TEL 0285-49-1500  
FAX 0285-49-1560

名古屋営業所 480-0102 愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷191  
TEL 0587-93-6888  
FAX 0587-93-5416

松本出張所 399-0033 長野県松本市大字笠賀5824-5  
TEL 0263-26-5731  
FAX 0263-26-5761

岡山営業所 700-0973 岡山県岡山市下中野704-103  
TEL 086-243-1147  
FAX 086-243-1269

熊本営業所 862-0939 熊本県熊本市長嶺南1丁目2番1号  
TEL 096-381-7222  
FAX 096-384-3525

都城営業所 885-0004 宮崎県都城市都北町3537-1  
TEL 0986-38-1045  
FAX 0986-38-4644